St.GIGA workshop

［セント・ギガ］ワークショップ

VOL.1 1991

自然音とMUSICの壮大なサウンド・ステーション

赤道上空36000㎞から降り注ぐ［セント・ギガ］のデジタル音楽放送は
「音の潮流」と呼ばれる、今、一番新しいメディアだ。

片岡義男／細野晴臣／いとうせいこう／森田芳光／三好和義／
矢野顕子／手塚眞／坂東八十助／比嘉栄昇／山口令子

St.GIGA
BS PCM
"I'm here." "I'm glad you're there."

SANYO
人と・地球が大好きです
ハイビジョン時代は、これから始まる。
「帝王」
Hi-BS
ジャック・ニクラス

St.GIGA workshop

［セント・ギガ］ワークショップ　目次

Konica

地球の写し方。

まず、どこにでも連れてゆける小さな
カメラと、いつでも美しく写るフィルムを用意。あとは、あなただけの名場面を探して、地球を
くまなく、歩きまわりましょう。では、いってらっしゃい。

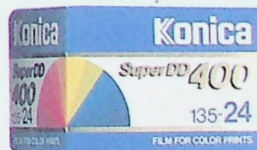
35ミリ・フルサイズ・フルオートカメラ中、世界最小。最短35cmまで寄れる、クローズアップ撮影機能、3モード・フラッシュ機構、ワンタッチ露出補正などなど、小さなボディに高性能満載。●カラー：シャンパンゴールド、チタニウムブラック●標準小売価格：35,000円（消費税別、ケースは別売り）

世界最小

BIG mini

BM-201

朝・昼・夕の太陽光。ストロボや蛍光灯など、あらゆる光に対応し、あざやかな色彩と、美しい肌色を再現。世界中、いつでも、どこでも、誰とでも、いい思い出を記録するのに相応しいフィルムです。

コニカカラー Super DD

人間、そして地球上全ての生物たちが同化する自然のリズム。
さまざまな地球の声、そんなサウンドを
「音の潮流」に託して届けるのがセント・ギガです。

21世紀へのラスト・ディケードを迎えた今
テクノポリスに住む私たちは
この青い星に生きていることを、時折見失ってしまう自分に気づく
しかし、そう嘆くばかりでもない
たとえ努めて意識しなくても、他ならぬ私たち自身の遺伝子が
この星の歩んできたすべての情景を記憶しているからだ
46億年という、はるかな記憶の堆積
それは私たちヒトもまた、この星の構成要素である確かな証である
カラダの中の、もうひとつの地球…
心臓の鼓動、血液と体液の流れ、脳の意識
ひいては生命を維持する、あらゆる代謝機能
すべては、この星が原初から脈打ってきた自然界のリズム
月の引力にあわせて共振を続けてきたはずだ
満月、満潮時の高揚は、生命感みなぎるビートを刻み、躍動を覚える
逆に引き潮となれば、心とカラダは寛ぎあるスローバラードを求めている
カラダの中の、もうひとつの宇宙…
今、都市生活者が切望するのは
母なる地球のリズムにシンクロした、ライフ・スタイルなのかもしれない
だから私たちは、「生命をもった音楽メディア」を宇宙から発信していく
ワールドワイドな選曲によるミュージックと
各国で収録したナチュラル・ソニック
そこにはCMもDJも存在しない。ピュアな「音の潮流」があるだけだ
あらゆる音楽は、自然界の流れにまかせてオンエアされる
あとは瞳を閉じて、そっと耳を澄まして…
そろそろ貴方のリビングルームにも「地球の楽曲」が響きはじめる頃だろう
BS-5ch PCM
We are St.GIGA
St.GIGA CREW'S ☎03-3796-1200

イルカのための音楽
月桂樹のための音楽
流氷のための音楽
虹とオーロラのための音楽
はるか漆黒の宇宙空間から、この青い星を俯瞰した瞬間
私たちは「地球の楽譜」のデザインに取りかかった
およそこの地球上で考えられる最も純粋な共通言語
それは二つある
ひとつめは愛
そしてもうひとつが、音楽だ

この星に住むすべての生命体が、愛を感じる音楽の波
なかでも選りすぐりのサウンドスケープを
St.・GIGAはPCMデジタル信号に乗せて、地球へ発信する
あらゆるジャンルを超えて
時間に制約されたタイム・テーブルの枠組を超えて
ジャズからクラシック、ロックからニューエイジへと
それはあたかも、音楽の美しいサーカスだ
時には、雪解け水が優しくしたたり落ちるように…
潮の満ち干にあわせてテンションを自在に操りながら
リスニングルームを音楽と自然音でデザインしていく
MUSIC IS MASIC
We are St.・GIGA

セント・ギガ。それは、太陽と月と海のリズムが作りだすハーモニー。

人間のDNAの中にひそやかに漂う海。
その記憶が忘れられなくて、
人は波の音、風の音に惹かれ、
月や星の動きに導かれる。
St．GIGAは、世界でただひとつ、
身体の内なる海と響きあう
「音の潮流」を送る放送局です。

地球の4分の3は海で占められています。この海からすべての生物は誕生しました。そして、生物のひとつである人間の体内の奥底にも、原始の海と同じ成分が含まれています。潮の満ち干が、太陽や月の運行に左右されるように、私たちも、また、宇宙の力と無関係ではいられないのです。

今、もっともラディカルな文化人類学者、ライアル・ワトソン氏は、ベストセラーになった『生命潮流』の中で、この事実を明らかにしました。彼は、この自然の大きな流れを〝潮流（タイド）〟と名づけたのです。

満潮時には感情が高揚しやすく、干潮時には感情が鎮静化するといったことも、その現れ。私たちは、胎児として生を受けてから生涯を終えるまで、月の満ち欠けや、潮の満ち干のリズムに影響されて生きているのです。

そのタイドの中には、ふだん、私たちが意

識している〝時間〟とは、まったく別の流れが存在しています。それは、羊水の中で感じていたリズムかもしれませんし、母なる地球の鼓動なのかもしれません。
そのリズムこそ人間にとって、もっとも心地よいはず。自然潮流の中では、人はもっともっと楽に呼吸できるのではないでしょうか。
そのためにできることは——。
St.GIGAの編成フォーマットは、まず、グリニッジ時間による放送「時間枠」や、細分化されたプログラムによるタイム・テーブルをやめることにしました。
そして、St.GIGAの編成は、次の3つのポイントによってガイドラインを決めました。
①太陽の運行、日の出、日の入り
②月の運行、月の満ち欠け
③海の運動、潮の満ち干
この自然のリズムにもとづいてSt.GIGAの「音の潮流」は生み出されているのです。St.GIGAにとって、このリズムが作りだす波形はシンボルでも記号でもありません。それは、地球という美しい星が奏でる「地球の楽譜」なのです。
例えば、もっとも早い知床（8月中旬から5月上旬までは南鳥島）の日の出から、一番遅い与那国島まで、約2時間の幅による変化、場所によって大きくかわる様々な波の形——。
St.GIGAは、これらの自然条件のデータをもとに、ガイドラインを決め、もっとも美しい音を作りだす編成を行っているのです。「音の潮流」。それは、身体の中の海に呼応するハーモニー。その中に身をゆだねるとき、私たちはSt.GIGAの音の世界の中に、忘れかけていた自然との調和を思いだすことができるでしょう。

TIDE TABLE

この潮汐の波形は、日本各地（一部海外を含む）の
実際の潮汐データから作られています。
セント・ギガでは、月～土曜は東京・芝浦の潮汐を、
また日曜は各地のポイントを1か所選び、
その地点で想定される潮汐をガイドラインにします。
日曜日には、セント・ギガが独自に収録した、
その地域ならではの音の風景（自然音）が流れます。
また、セント・ギガでは、
折りに触れて二十四節気や天体現象などにあわせた
スペシャル・デイを設けます。

はみだしへセント・ギガ〜——昨年12月の放送開始以来、多くの方々からメッセージが寄せられました。その数ざっと12万通。その一部を紹介させていただきます。●は朝、●は昼、●は夜の印象です。

Photo/Katsumi Kurihara

ノンストップ、ノンコマーシャル 24時間うちよせるセント・ギガの「音の潮流」

St・GIGAは、1日を1つのプログラムとしたワン・フォーマット編成。自然のリズムにあわせて、ハイタイドでは感性を刺激し、ロータイドでは、リラックスできる音楽を選曲しています。「音の潮流」に包まれること。それは、宇宙のリズムと共振することなのです。

'91.8.23 FRI

スター・ライン

星の時。与那国島の日没から、次の日の始まりである知床の日の出まで、日本列島の夜の訪れとともに、「星」をテーマに地球と宇宙、そして人間の夢をうたいます。

20 21 22 23 0 1 2 3 4

HIGH TIDE

LOW TIDE

19：16

4：23

03：54：56 Open Your Heart/Ceybil Jeffries（セイビル・ジェフリーズ）
03：44：47 Let There Be Love/Arthur Baker（アーサー・ベイカー）

―夢のサイレン―（音楽は波に美しい魔物を浮かび上がらせます）

02：58：40 Now That We Found Love/Heavy D & The Boyz（ヘヴィーD&ザ・ボーズ）
02：19：19 Corcovado/Miles Davis & Gil Evans Orch（マイルス・デイビス&ギル・エヴァンス・オーケストラ）
02：00：38 Children's Games/Antonio Carlos Jobin（アントニオ・カルロス・ジョビン）
01：51：25 Betcha' Wouldn't Hurt Me/Quincy Jones（クインシー・ジョーンズ）

―伝説を超えて―（哀しい神話は夢の中で幸福な結末にかわります）

00：32：41 Brandy/The O' Jays（ザ・オージェイズ）
00：20：57 Star Eyes/Cal Tjader（カル・ジェーダー）
23：13：52 Lady Be My Love Song/Reddings（レディングス）
23：04：13 C.Debussy Images 2-2

―夜の目覚め―（闇に浮かぶ月…そして星。夜の中で輝くものたちを音楽が描きます）

22：50：00 Crystal Suita/Steven Halpern（スティーブン・ハルパーン）
22：19：48 S.E.沖縄クラマトカシクビーチ
21：49：16 Wonderful Tonight/Eric Clapton（エリック・クラプトン）
21：22：51 You're Not The Man/Sade（シャーデイー）
21：06：56 Love Theme From Bladerunner/Vangelis（ヴァンゲリス）
20：59：59 Moment In Love/Art Of Noise（アート・オブ・ノイズ）

―夏の漂流者―（訪れた闇の時間。光を求めてさまようひととき）

スター・ライン（19：16～4：23）

19：00：58 Secret Memory/Sold Out（ソールド・アウト）
18：45：55 Amelia/Cocteau Twins（コクトー・ツインズ）
18：00：44 Summer Madness/Kool & The Gang（クール&ザ・ギャング）

St・GIGAの「音の潮流」は、耳を澄ますことから始まります。

音、あるいは音楽によって宇宙のリズムに寄り添いたい。いつも、自然に包みこまれて生きていることを実感していたい――。

そのために、St・GIGAではコマーシャルを排し、24時間連続のワン・フォーマット編成をひきました。そして、「音の潮流」を構成する4つのサウンドを決めたのです。

まず第1は、当然『ミュージック』。自然の変化に応じて、ハイタイド（満潮）では感性を高揚させる音楽を、ロータイド（干潮）では、リラックスし感情を鎮静させる音楽を。選曲にあたっているのは、世界でも群を抜く優秀な国内外のスタッフたちです。彼らは、新しい音、リズムへと誘う水先案内人です。

第2に『サウンド・オブ・ジ・アース』（自然の音）。世界各地の波の音や風の音など、「音の風景」を独自に収集し、それを音楽とミックスして放送しています。

第3の音、それは『ヒューマン・ボイス』。人間の言葉も、生きた自然の音のひとつです。語るテーマは「星」と「水」。美しいナレーションによるオデッセイが、音楽や自然の音と

サンライズ・ゾーン ＊1

日本列島で一番早く陽が昇る知床の日の出から、一番遅い与那国島の日の出まで。各地の日の出の風景を織り込みながら、静かな日本列島の夜明けを伝えていきます。

ウォーター・ライン ＊2

水の時。与那国島の日の出から、知床の日没まで、日本列島に太陽が昇っている間、「水」をテーマに自然と生命の息吹を伝えます。

サンセット・ゾーン

知床の日没から与那国島の日没まで、各地の日没の風景を織り込みながら日本列島の夕暮れに耳を澄ませます。

＊1）ただし8月中旬から5月上旬までは、南鳥島が一番早く陽が昇る地点になります。
＊2）2月上旬から11月初旬までは、南鳥島が一番早く陽が沈む地点になります。

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

HIGH TIDE

LOW TIDE

4：23　6：26　17：11

これは、8月23日に放送された曲目の一部。
セント・ギガ・ギガでは、
1日に約400曲がオンエアされます。

サンライズ・ゾーン（4：23〜6：26）

04：31：57 Ciberphoenix:Introduction/Takashi Kokubo（小久保 隆）
04：47：42 A.Drorák.Serenade for strings E Majer Op.22 2nd Mo
05：06：30 The Real Dream Of Sails/Harold Budd（ハロルド・バッド）
05：13：02 Under The Sun/Paul Winter（ポール・ウィンター）
05：24：31 S.E.西表島月が浜日没
05：33：36 J.S.Bach:Concerto for harpsichord No.5 2nd Mov
05：41：46 The Longships/ Enya（エンヤ）
05：45：16 First Light/ Harold Budd•Brian Enro（ハロルド・バッド＆ブライアン・イーノ）
06：05：55 Grow Old With Me/ Morgan Fisher（モーガン・フィッシャー）

ウォーター・ライン（6：26〜17：11）

―波のサイレン―（朝の波音…澄んだ空気に響くのは、遠い場所から誘う唄声）

06：40：00 S.E.サウンドモンタージ口II 5
07：50：14 Things Across The Sea/Kevin Braheny（ケヴィン・ブラヘニー）
08：48：20 J.S. Bach:Goldberg Concerto
09：07：36 Wind At Cherry Creek/Bernie Krause（バーニー・クラウス）
09：29：07 Chimera/Joe Gilman（ジョー・ギルマン）
09：34：18 Awakenings From Original Sound Track「Awakenings」/ サントラ「レナードの朝」
10：13：43 Melt The Snow/Virginia Astley（ヴァージニア・アストレイ）
10：41：02 Steel Cathedras/Davil Sylvian（デヴィッド・シルヴィアン）
11：46：07 Cinema Paradiso/Ennio Morricone（エンニオ・モリコーネ）

―美しい罪―（鮮やかな季節が見せる真昼の夢）

12：41：12 S.E.曽々木海岸洞窟水滴
12：49：31 Theadora is Dozing/David Byrne & Dirty Dozen Brass Band（デヴィッド・バーン＆ダーティー・ダズン・ブラス・バンド）
13：23：51 Million & Half Moon/Water Mellon Group（ウォーター・メロン・グループ）
13：35：49 Jade Jade Shade/Yas-Kaz（ヤスカズ）
14：09：37 Kyrie/Paul Winter（ポール・ウィンター）
15：11：04 Surround/Hiroshi Yoshimura（吉村 弘）

―妖精の逃亡―（光があふれる午後…）

15：43：27 Mimosa/Michael Brook（マイケル・ブルック）
16：50：58 Rice Slow/Koizumi Naoya（小泉 直也）

サンセット・ゾーン（17：11〜19：16）

―消えていく夏の太陽―（夕暮れのサウンドスケッチ）

17：16：04 Carnival Of Souls/David Van Tieghem（デヴィッド・ヴァン・ティーゲム）
17：54：19 After The Dance/Marvin Gaye（マービン・ゲイ）
18：04：15 The Whistle Song/Frankie Knuckles（フランキー・ナックルズ）
18：11：24 Nagisa'91/Takanaka Masayoshi（高中 正義）

響き合い、音の潮流を構成していきます。

そして第4の音が『セント・ギガズ・シンボル』。「I'm here」「I'm glad you're there」。St．GIGAの願いを託したこのメッセージが、ステーションIDとして、音の潮流に美しい句読点をうっていきます。

これらの「音の潮流」が、太陽・月・海（潮）の動きによってわけられた4つの世界

①SUNRISE ZONE
②WATER LINE（日の出から日没まで）
③SUNSET ZONE
④STAR LINE（日没から日の出まで）

にちりばめられ、音の世界をつくりあげます。

St．GIGAには既成のジャンル分けは必要ありません。地球の音すべてが「音の潮流」なのです。St．GIGAには世界のどこにもない優れた選曲テイストが存在します。

音楽によって、真に自然と、宇宙と共振するために――。

●朝のセント・ギガで、昨日の疲れがとれていくような気がする。一日の始まりの音楽としては、ベストチョイスだと思う。（神奈川・秘書・24）

●毎朝、シャワーを浴びながら聴いています。（東京・スタイリスト・28）

セント・ギガでアルファ波をキャッチする。

楽しいとき、うれしいとき、失恋したとき、むしゃくしゃした時――、音楽はいつも私たちのそばにいてくれます。
音楽には、太古の昔から人を幸福にする果てしないパワーが秘められていたに違いないのです。
だから、セント・ギガでミュージック・リラクセーション。

取材協力:ランダム エレクトロニクス デザイン

St.GIGAの音楽にはアルファ波がつまってる

人間の脳波には、α(アルファ)波、β(ベータ)波、θ(シータ)波、τ(ガンマ)波などがあり、これらの波がその人のその時の精神的・肉体的状態を反映し変化していくことはよく知られています。中でも、特に注目されているのがα波。α波が出ている時は、心身が安らいでいるといわれています。

そもそもα波とは、脳が出す8～14Hzの周波数のこと。この波が脳に働き、リラックスさせながら、かつ活性化させるというのです。

こんないい脳波なら、どんどん出せればいいのですが、現実生活ではなかなかそうはいかないのが現状です。

そんな時注目したいのが、St.GIGAによるミュージック・リラクセーションです。

自然のリズムと共鳴するSt.GIGA。そのミュージックは身体のリズムと呼応して、α波がたくさんでるのではというわけです。

そこで、今回は脳波をモニターできる新兵器「IBVA」を使ってSt.GIGAのα波効果を調べてみることにしました。これは、マッキントッシュのコンピュータ・グラフィックに接続するだけで、脳波の動きが3D画面でみられるというものです。興奮するとβ波を示す赤色が、リラックスするとα波を示す青色が現れます。

試してみたのは、数十名のスタッフたち。脳波をモニターするといっても、医学的に脳の性能や質がわかるというモノではないのですが、みんな緊張してしまい、ピンピン赤色を突出させてしまう人もいました。

しかし、そんな人も目を閉じて身体の力を抜き、音楽に身を委ねていくうちに、画面はしだいにα波を現す青色に変わっていったのです。そして音楽もさることながら、波の音や鯨の声といった自然の音の方が、より、共鳴しやすいらしいということもわかりました。

意外と脳はウワキものだから常に新しい音楽を

しかし、単にα波を出すだけなら、最近巷で出回っているリラクセーションCDの方がいいのでは、というのももっともな話です。

では、ここで脳波がα波を出す仕組みについて考えてみましょう。

音楽が脳波に影響を与えα波が出やすい状態になるには、次の3つのパターンがあると考えられています。

①感動した体験などがある、思い出の曲を聴いたとき。
②権威者が、その効果についてあらかじめ解説をし、その影響を受けたとき。
③音楽の高低、強弱、リズムなどの変容が身体に心地よいゆらぎを作るとき。

これらの条件が、複雑に絡まって α波は出るわけです。それでは、St.GIGAもリラクセーションCDも条件は同じといえます。ただ、ここで問題なのは、人の脳には"慣れ"があるということです。

いくら効果があっても、明けても暮れても同じ音楽を聞いていれば慣れてしまい、心地よいと感じなくなる場合もあるのです。そうなると、1枚のCDでリラックス効果を期待するのは、限界があるのではないでしょうか。

実験開始直後は、緊張を表すβ波の赤い色が画面に出ている。

α波が出ていることを示すブルーの画面。α波の出方は個人差が大きいが、音楽が心に与える影響は大きいようだ。

キャパシティを広げるSt.GIGAミュージック

また、クラシックが大好きで、それしか聴かない人もいるでしょう。一見何も問題はなさそうですが、ところがその人は、クラシック以外の音楽には緊張したり不快感を覚えたりするのです。つまり、非常に狭い視野の中でしか生きられなくなっているわけです。それよりは、ジャズでもロックでも民族音楽でも、何に対してでも心を開けるようにしておけば、それだけで世界は広がっていくのではないでしょうか。そう考えると、世界中の音楽をチョイスし、つねに新しい試みを続けるSt.GIGAは、心をリラックスさせるための強い味方といえそうです。

ミュージック・リラクセーション、それは、より快適に生きていくための現代人の必須知識なのかもしれません。●

St.GIGAは、太陽と月と海のリズムをガイドラインに、自然の大きな流れである潮流（タイド）にあわせて、選曲されています。

もちろん、その音楽は、クラシックからポップス、ジャズ、民族音楽、そして、独自に収録した波の音、鯨の鳴き声と幅広く展開していきます。St.GIGAは地球上のあらゆる音を音楽とした、グローバル・ミュージック・ステーションなのです。

既成のジャンルを超えて、世界中どこにもない新しい音を作りだすSt.GIGA――。その調べは、人のからだの奥底にある内なるタイドに共鳴することでしょう。

医療の分野でも注目される ミュージック・リラクセーション

医師・日本ホリスティック医学協会運営委員
堀 雅明氏

堀 雅明（ほり まさあき）
1956年生まれ。昭和大学医学部卒。耳鼻科医。癌患者に対する心理療法であるサイモントン療法などに取り組む。訳書に、自然治癒力を科学する一般向け教養書「内なる治療力」（創元社）。ホリスティック医学シンポジウム'91実行委員。昭和大学医学部公衆衛生学研究生。

現在、世界的に、自然治癒力を高めて、最小限の治療で効果を高めようという流れがあるんです。その方法として注目されているのが、リラクセーションです。リラクセーションによって痛みが軽減したり、病気の進行を遅らせられるということは、アメリカでは'70年代の終わりにすでに報告されています。

リラクセーションを活かした医療を促進したひとつのきっかけが、バイオフィードバックという機械の登場です。今回のIBVAもそのひとつですが、リラックスしているかどうかを様々な方法で確かめることが可能になりました。緊張のレベルは人によって違います。普段から緊張のレベルが高い人は損なんです。いくら本人は頑張っても、感度が落ちているわけですから、ロスが多いんです。普段から、リラックスして緊張のレベルを下げておくと、いざという時の瞬発力もとても違ってくるんですね。

そのリラックス・トレーニングに、役立つのが「音楽」です。スポーツ選手などは、試合前にヘッドフォン・ステレオで好きな音楽を聞いてリラクセーションしている人も多いんです。アメリカやヨーロッパでは、音楽療法士という患者に合わせた音楽を処方する資格制度があるほどです。

けれども、その人にあった音楽というのは、その人しか持っていません。例えば、ある末期癌の患者さんがボレロが好きだというので、ボレロを聴かせると、痛みがとても軽減したことがあります。しかし、これが他の人に当てはまるわけではないですよね。つまり、音楽が癒しの力を発揮するのはマスではなくてパーソナルなものなのです。

しかし、日本の医療はまだまだそこまでいっていません。ましてやIBVAのようなソフトで脳波のリラクセーションの度合いを測るといっても、医学的というよりは、今はまだどちらかというと文化に近いものですよね。しかし、これからは、音楽とリラクセーション、そして医療は、さらに結びついていくと私は思っています。

●まるで音楽のセラピーだ。からだのバイオリズムにもあっている。（東京・ダイビングインストラクター・27）

●妊娠した妻の胎教のためにとてもよいと思った。（千葉・会社員・33）

TCD-D3 標準価格98,000円(税別)

【手のひらサイズで、録音もできるDATウォークマン。】

- ●A/Dコンバーター内蔵でアナログソースにもダイレクトに対応。
- ●1時間充電で約2時間の録音/再生が可能。
- ●最長4時間の録音/再生ができる長時間モードを搭載。
- ●暗い所でも見やすいELバックライト付液晶パネル採用。
- ▶大きさ:幅85.2×高さ40×奥行120.1mm(充電池含ます)
- ▶重さ:420g(充電池含ます)

DTX-10 標準価格120,000円(税別)

【CDチェンジャーも操作できる、かしこいカーDAT。】

- ●10連奏CDチェンジャーコントロール機能搭載。
- ●耐振性・耐熱性に優れたノントラッキング方式採用。
- ●FM/AMシンセサイザーチューナー内蔵。
- ●2色に切替え可能なイルミネーション表示。
- ▶大きさ:幅178×高さ50×奥行138mm▶重さ:1.3kg

◉その音質のよさは、やっぱりデジタル。

DATの最大の特長が、この「デジタルである」というところ。いままでのアナログテープが音の情報をそのままテープに記録していたのに対し、DATではその情報をデジタルの符号に置き換えて記録しています。だから極端に大きい音も小さい音も、また極端に高い音や低い音もごくリアルに録音・再生できる。SCMS*対応でデジタル編集するときに音質がほとんど劣化しないのも同じ理由によるものです。

◉テープの扱いやすさも見のがせない。

ぜひ実物で見てもらいたいのが、DATのテープのサイズ。握った手にすっぽり入ってしまうほどのコンパクトさは、いままでのカセットテープやCDではあり得なかったものです。しかも、このサイズで最大2時間(120分テープを使用した場合。長時間モードなら最大4時間)収録可能。ビデオテープと同じ片面の一方通行方式なので、A面/B面の境で途切れることもなく、好きな音がたっぷり楽しめます。

◉手間いらずの簡単操作が、便利です。

DATの操作は普通のデッキやCDプレーヤーとほぼ同じ感覚で、すぐ使えます。しかも、早送り/巻戻しが驚くほどスピーディー。スタートIDなどのアクセス信号(サブコード)機能もあって、選曲や頭出しがあっという間にできます。そのうえ、デジタル録音をするときにはレベル調整もまったく不要という手軽さ。メカの原理上、振動で音がとんだりしないのも、外やクルマで聴くときには貴重ですね。

*SCMS(シリアルコピーマネージメントシステム):CDなどのデジタルサウンドを1世代分デジタルのままで録音することを可能にした新規格

SONY

デジタルで録れる。デジタルで聴ける。それが、ソニーのDATフォーメーション。

外でも、家でも、クルマの中でも、
DATなら、CDなみの高音質がぐんと気軽に楽しめます。
テープが小さくて扱いやすいし、操作も簡単。
長時間切れ目なしに録音できるし、曲の頭出しもスピーディー。
しかもそれが、ソニーのDATフォーメーションなら、
目的に合うほしいタイプが、ちゃんとしっかり揃っています。
あなたには、デジタルのいい音を、もっと楽しむ権利があります。

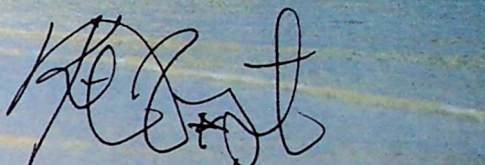
DTC-57ES 標準価格88,000円(税別)
〔D〕ゴールド(ワイヤレスリモコンRM-D57A/D、サイドウッド付属)
〔B〕ブラック(ワイヤレスリモコンRM-D57A、サイドウッド付属)

【高性能が気軽に楽しめるDATデッキ。】

- 1ビットタイプのパルスD/Aコンバーター採用。*
- 録音した日時を記録できるデート機能を装備。
- テープ走行が確認しやすい正立透視型ローディング。
- リール専用モーターも搭載した高精度メカニズム。

▶大きさ:幅470×高さ125×奥行350mm(サイドウッド取り外し時の幅:430mm) ▶重さ:約8.2kg

*パルスD/Aコンバーターは、NTT考案の多段ノイズシェイピング(Multi Stage Noise Shaping)技術を用い、ソニーが開発し、実用LSI化しました

新発売
【DAT用カセットテープ】
DT-46(46分)/DT-54(54分)/DT-60(60分)
DT-74(74分)/DT-90(90分)/DT-120(120分)

写真のオプションは、
密閉型ステレオヘッドホン MDR-CD550 標準価格8,000円(税別)〈別売〉
バックエレクトレットコンデンサーマイクロホン ECM-S220 標準価格18,000円(税別)〈別売〉
ステレオイヤーレシーバー〈ヌード・ステラ〉 MDR-E575 標準価格5,500円(税別)〈別売〉

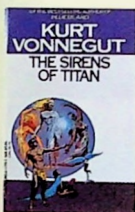
(●あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。
●カタログさしあげます。機種名を明記の上、〒108 東京都高輪局区内 ソニー(株) カタログ係へお申し込みを。)

SEPT. 1 1990

DEAR HIROSHI YOKOI —
I AM CHARMED AND HONORED BY YOUR INTEREST IN MY SHY HARMONIUMS. PLEASE, PLEASE MAKE USE OF THEM, WITHOUT FEE AND WITHOUT FURTHER NOTICE TO ME. CHEERS!

KURT VONNEGUT

カート・ヴォネガットからの贈り物、「ハーモニウム」。

1990年9月。St.GIGAに届いた一枚のハガキ。そこには
「私の恥ずかしがり屋のハーモニウムに、ご関心をお持ちいただき、大変うれしく思います。どうぞ、どうぞ、ご自由に彼らをお使いください。ご健闘を祈ります。――カート・ヴォネガット」
と記してありました。

PROFILE
カート・ヴォネガット(SF作家)。1922年インディアナ州生まれ。コーネル大在学中より校内〈コーネル・サン〉のコラムニストとして活躍。第2次世界大戦では、ドレスデンで収容所生活を経験。1952年「プレイヤー・ピアノ」を発表。以後、特に大学生の間で絶大なる支持を受ける。著書は「母なる夜」「スローターハウス5」「猫のゆりかご」など多数。

カート・ヴォネガット著「タイタンの妖女」

究極の愛の言葉とは、どんなものでしょう? 地球上空3万6千キロに輝く、星の放送局St.GIGA。そこから見える、この美しい青い星へ、星に住む人々へ、私たちの想いを音に変えて伝えたい。

それは、開局の準備中、私たちがずっと考えていたことでした。

そんな時に出会ったのが、アメリカのSF小説の巨匠、カート・ヴォネガットの『タイタンの妖女』だったのです。その小説には不思議な生命体が登場していました。

それは、水星の洞窟に住む「ハーモニウム」でした。「ハーモニウム」は美しい歌を食べて生きています。そして、美しい歌を食べると、身体をアクアマリンに輝かせて喜びを表すのです。

彼らのもつ言葉は2つだけ。

「ワタシハココニイル　ココニイル　ココニイル」
(I'm here)

「アナタガソコニイテヨカッタ　ヨカッタ　ヨカッタ」(I'm glad you're there)

私たちは、ヴォネガット氏へ手紙を出しました。私たちが作ろうとしている放送局についてのコンセプトと、この「ハーモニウム」をSt.GIGAのシンボルにしたいというメッセージを。

ワタシハココニイマス――それは、遥かな宇宙に向けた地球のメッセージ。

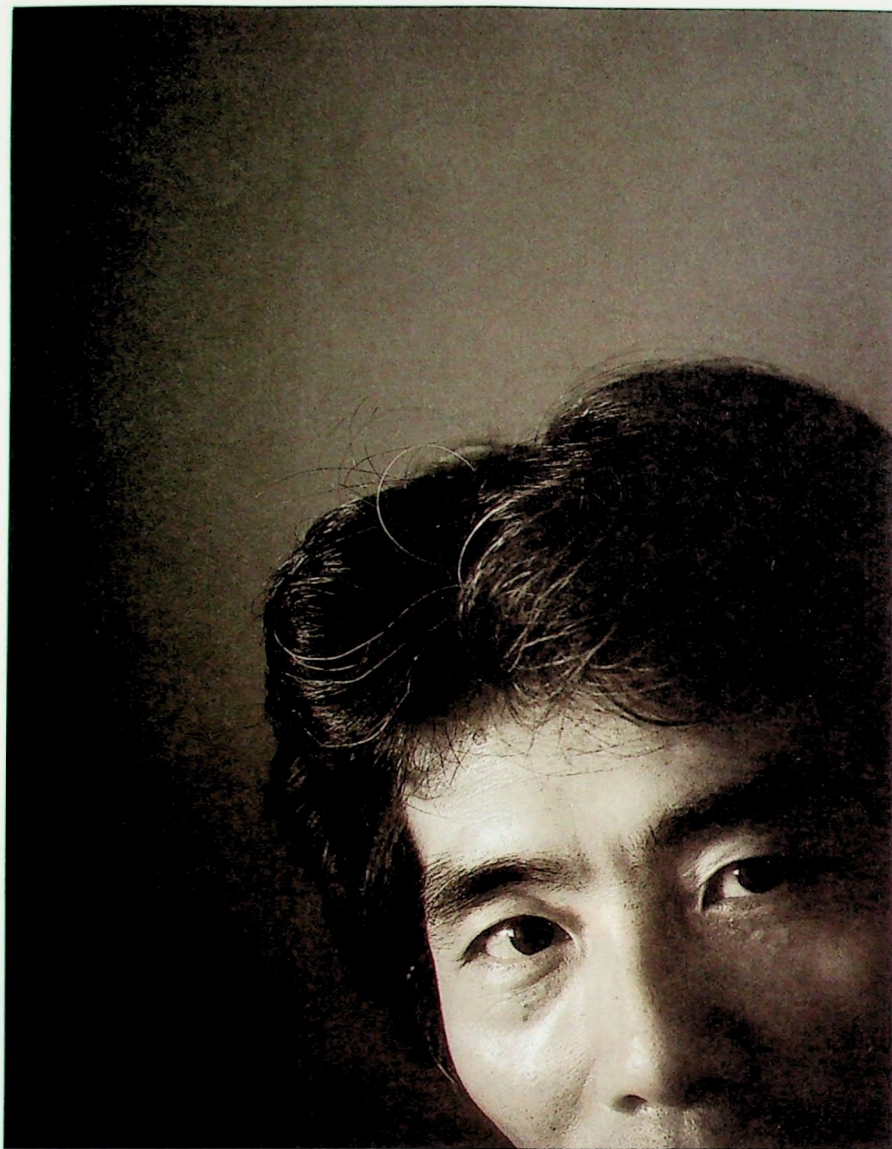
アナタガソコニイテヨカッタ――これは究極の愛の言葉。何もいらない。何も求めない。

2つの言葉は祈りにも似ています。地球の、そして私たちの永遠のメッセージ。

遠い空からSt.GIGAはこの祈りを音に変えて地球に降らせます。地球上がこの音で満たされるように願いをこめながら。

「地球に存在するあらゆる音で、サウンド・デザインしていきたい」

横井宏

インタビュアー：宇野 大

Photo/Atsushi Ueno

FM東京の敏腕プロデューサーであり、J－WAVEの編成コンセプトと番組を創りあげた男。横井宏。
彼が放送業界の仕上げの仕事として取り組んだ「セント・ギガ」のコンセプトは、それまでの音楽メディアのそれとスタイルをまったく異にする。表層から脱却し、リスナーの心に溶け込もうとする新しいサウンド。
彼は「セント・ギガ」というメディアに、どんな可能性を見出したのか。

やせほそったクリエイティブに、いつもいらだちを感じていた。

FM東京（現TOKYO FM）、広島FM、J－WAVE、そしてセント・ギガと手がけてきたわけですが、いつも突き動かされていたのは、何かを生み出したいという意識でした。作り上げるまでは興味がわいているんだけれどね、一度水平飛行に入ってしまうと魅力が半減する（笑）。モノを作り出すときの情熱というか、ダイナミズムみたいなものが好きなんです。放送局の開業は、1年の準備期間中に3年分にも匹敵する編成や番組をつくる仕事ですからシンドイですよ。一度やりおえると、もう二度とやるものかと思うんだけれど、気がつくと身体が動いている。山登りと同じですよ。

最初、FM界に入った頃は無我夢中でしたけれど、途中からこれでいいのだろうかという疑問がわいてきたんです。FMは、音質が良いというハード面に頼り過ぎた。レコードにもたれ過ぎて、音楽メディアのもつ本来のエンターテイメントやクリエイティブなものを育てようとしなかった。そこにずっといらだちを感じていた。それで在職中、いろいろなことに手を染めました。ブロードウェイからミュージカルを招聘したり、劇団の公演を企画したり。そのほうがずっと面白くて（笑）。例えば稽古場にいった時、演出家と俳優がつかみかかる勢いで口論している光景を見ると、ああ、これがモノを作り出すという

ことなんだと感動したりしてね。

パッケージ品の「選曲」だけでは リスナーに鳥肌など立たせられない。

要は、FMという音楽メディアは、音楽を完成品としてとらえていたところに限界があったと思うんです。完成品の「楽曲」を選曲して、編成して、中をDJでつないで。そんなパッケージ的な手法では、リスナーに鳥肌を立たせるようなエンターテイメントは出来ないですよ。結局、音の良さというのは音楽の良さであって、その放送メディアそのもののことではなかったと思ったんです。

J―WAVEの編成コンセプトを手がけたとき、その点を考えて放送局というメディアそのもののエンターテイメント性を大きく掲げました。アップスケールな都会人の生活空間を音楽で演出するというテーマで、二百枚ほどの編成方針を書き上げたわけです。それが功を奏して、J―WAVEというメディア自体がスターになった。

しかし、僕の中では、やはり広告放送をベースにした地上波としての限界を感じていました。

本当は、その時点で放送業界から足を洗おうと思っていたんです。ずっと西洋美術史に興味があって、本格的な研究活動に入ろうと思っていたから。だから、セント・ギガの開局に参画して欲しいという依頼も、1年近くお断りし続けていたんです。他に適任の人がいるでしょうって。

地球、自然、生命体の鼓動が聴こえてくる。これからの生活には、きっとこんなイマジネーションが必要だと思う。

自然の音も、一つの曲も、音の素材としては等価値なんだ。

僕は、「音楽一途人間」じゃない。四半世紀も音楽メディアに関わっているから、人生を変えた曲や想い出に残るフレーズがあるでしょうとよく聞かれるけれど、実は僕にはそれほどのものはないんです。人間や時代を見つめるジャーナリスティックな視点を大切にしたいと思っていた。だから、ほかのことと音楽を対等に見ることができたのかもしれない。音楽ということより、「音」そのものに興味がもてたのかもしれません。

実際、僕たちの生活の周辺には、音があふれています。だから、もっと耳を澄ますと、いろいろな音が聞こえてきます。夜明け前に、木肌に聴診器をあてるとザーッという音が聞こえてくるのを知ってますか。それは、木が土の中から水を吸い上げる音なんです。そして、酸素を作り出す。それを察知して鳥が朝、鳴くんだそうです。

波の音も、同じように聞こえても、ずいぶんと違う。砂浜や岩場、珊瑚礁という地形の差だけでなく、専門家は水温や気候までわかるそうです。面白いですよね。

そうした生物や自然のことを考えていると、今、地球はどんな表情をしているのか、地球の「音」とは何なのかというところにも興味がわいてくる。宇宙飛行士たちの写真集『ザ・ホーム・プラネット』や立花隆氏の『宇宙からの帰還』なども読んでいて興味があったんです。ただ、エコロジストではないから、漠然とでしたけれど……。しかしこれらは確実に僕の意識の中に沈潜していった。

大切なものって、目に見えないんじゃないかな。

そんなある日、NHKのVTRでモネの「睡蓮」の絵のバックに、ピアノとともにナレーションがゆったりと流れていく。それを見たとき、インスピレーションがひらめいたんです。「音」はイマジネーションであり、極めて精神性の深いものだということに改めて気づいた。それで、今まで思っていたことをセント・ギガの編成方針として一気に書き上げたんです。

見えるものの奥にあるもの――そのイマジネーションこそが大切なのではないかと思ったんです。絵画を通して画家の精神を見るというか、音は精神を見るというか……。映画の『プラトーン』のクライマックスで、サミュエル・バーバーの「弦楽のためのアダージョ」が流れてくるでしょう。あの場面の心の高揚が、音のもつ意味だと思うんです。

モネ「睡蓮」

僕の生き方のテーマとしてあるのは、サン・テグジュペリの『星の王子さま』の中にある言葉なのかもしれません。星の王子さまとキツネの会話の中に「かんじんなことは目に見えない、心の眼で見るんだよ」というのがあります。心の眼で見るということは、心を澄まして、じっとイマジネーションを働かせること。それは耳を澄ませることでもあります。

はじめに音ありきなんです。しかし、現代の生活の中で、僕たちは視覚を優先し過ぎて、音に対して耳を閉ざし過ぎているのではないかと思うんです。人間の声も、鳥も、波も風も雨も、すべて地球の音だし、その音が〝音

●うるさいCMやDJがないので、仕事場で流すことにしました。忙しい職場ですが、気持ちが落ち着くと、とても好評です。(神奈川・OL・27)

●疲れているときに聴くと、ゆったりして身体がすーっとする感じです。(沖縄・自営業・27)

楽の母〟だと思うんです。

そこで、原点に帰ることによって何が浮かんでくるのかを考えてみたんです。絶え間なく奏でられる「音」を、僕たちは「潮流」という意識でとらえてみました。最初、「音楽潮流」といっていましたが、今ではもっと大きく「音の潮流」といっています。

「音」は「地球のリズム」の中から生まれてくる。地球のリズムは、太陽の動きや月の満ち欠け、潮の満ち干、星の運行に司られている。自然の大きなうねりが、生命のリズムに影響を与えている。そして、そこから考えたのが、「タイド・テーブル」という編成プログラムなんです。その特徴は、「時間」という概念をなくしたことです。僕は、腕時計をはずしてみたかった。1日は24時間、1年は365日という枠ではなく、1日の日の長さは少しずつ変わっていく。四季は移っていく。永遠に続いていく自然の中で、「音の潮流」を作り上げていくということです。

波＋ビート音＋パーカッション＋シンセサイザー…。セント・ギガは、壮大なハウス・ミュージックだ。

僕は、音の表情としての「音」と「音楽」を等価値にとらえています。だから、パッケージとしての完成品の「音楽」を流すわけではないし、単に自然の「音」を世界中から集めただけではない。

地球に存在するあらゆる「音」と「音楽」でサウンド・デザインしていきたいと思っているんです。

地球上の「音の潮流」のリミックスなんです。波の音とシンセサイザーの音、そして即興でパーカッションが奏でられ、時折メッセージとしてのナレーションがゆるやかに流れる。編成者は、前の人から受けたイメージを自分で構成して、次の人につなげていく。サウンド・デザインのバトンタッチです。そして、リスナーに向けて、地球のメッセージを「音の潮流」で表現していく。セント・ギガは絶え間なく、ライブで放送されています。

僕は、セント・ギガは壮大な地球の音のハウス・ミュージックだと思っています。ですから、選曲者もサウンド・ディレクター（SE制作者）も国内外のトップシーンで活躍しているスタッフを選りすぐりました。選曲もSEデザインも最先端のセンスを集めていると思いますね。

まったく新しい制作スタイルですから、過去のノウハウもないし、その場が真剣勝負ですよ。でも、僕を含めて水と安全とラジオはただと思ってきた日本人に、何か新しい価値基準を問いかけたいと思っているんです。セント・ギガで、その気配をつかまえはじめましたね。

僕は今、セント・ギガが一番アーティスティックで、新しい表現行為だと思っています。

横井宏PROFILE

1944年東京生まれ。早稲田大学卒。現在までFM東京、広島FMなど20年以上に渡り、FM放送の分野でプログラム制作、番組編成にかかわる。FM JAPAN (J-WAVE) の開局も手がけ、編成次長（兼制作課長）を勤めたのを最後にFMの世界から転身。1990年7月、衛星デジタル音楽放送編成局長に就任。現在同取締役。

自然そして音楽。最先端のデジタル機器がセント・ギガのダイナミズムを再現する。

重低音から超高音域までの忠実な再現力。そして信頼の置けるタフなシステム。これらを支えるのがプロユースのデジタルシステムだ。セント・ギガのスタジオに据え付けられた高品位な最先端機器が、スタッフたちの感性をダイレクトに電波に乗せる。

衛星を通じ、高品位なサウンドを届けるセント・ギガ。自然界のあらゆる音を忠実に再現するためには、何よりも広いダイナミックレンジが必要だ。それだけにハードには最高機器を用いて、音に対するクオリティを確保している。いわば"音声のハイビジョン"だ。

東京・神宮前のセント・ギガ本社は2つのフロアからなり、ここの3スタジオから24時間生放送の「音の潮流」が生み出される。ウオーター・ラインの放送は「水のスタジオ」、スター・ラインは「星のスタジオ」からオンエア。2つの時間帯の間となるサンライズ・ゾーンとサンセット・ゾーンは、それぞれのスタジオから音がクロスされ、壮大なフェード・イン、フェード・アウトが行われる。

スタジオに据え付けられたハードは、いずれもプロユースのデジタル機器。各スタジオには4台のCDプレーヤーと3台のDATがコンソールされ、ミキサーからのリモート操作が可能。フェードイン・アウトのタイミングなどもマルチに設定できる。また時にミキサーにはアナログプレーヤーやシンセサイザーがつながれ、自然音やミュージックに合わせて即興演奏が広げられたりもする。

そしてセント・ギガでの音を最終チェックする部分がマスタールーム。デジタルサウンドは一定のレベルを超えると音にならないので、キャパシティのチェックは特に重要だ。そうして送り出されるセント・ギガのリミックス・サウンドは、光ケーブルを通してJSBに送られ、衛星経由で全国各地へ届けられる。そのため一般地上波の放送局と違い、セント・ギガには送信用のアンテナがない。

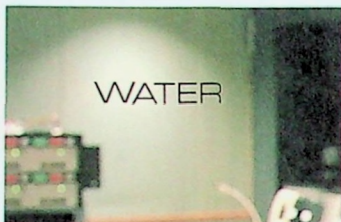
こうしたスタジオに据え付けられた高品位な最先端機器が、スタッフたちの感性をそのままに、「音の潮流」を電波に乗せるのだ。

クラシックからジャズ、そしてロック
セント・ギガの多彩なミュージックソース

●BSチューナーをステレオに接続して聞いている。音質がすばらしく、もうFMなんて聴けない。(宮城・ペンション経営・31)

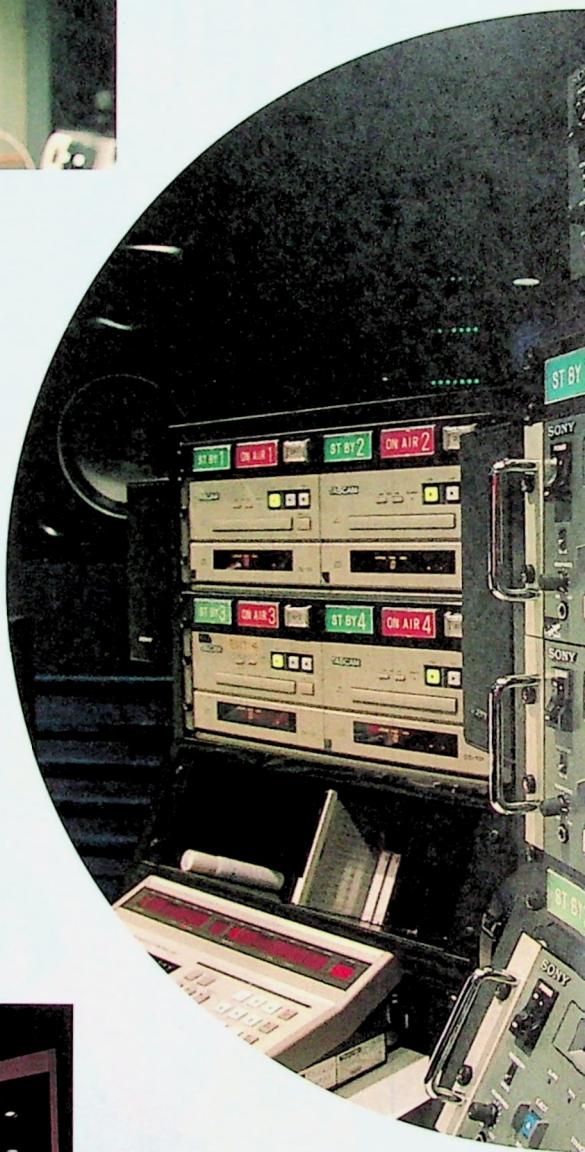
●DATでそのまま録音できていい。(和歌山・会社員・23)

水のスタジオ、星のスタジオ

クリエイティブ作業を行うメインのスタジオ。ウオーター・ラインは「水のスタジオ」、スター・ラインは「星のスタジオ」が使われる。それぞれの部屋の機器は一緒で、時間帯に合わせた室内のカラーリングとイメージが異なる。

エディット・ルーム

CDやDATの編集を行う。大小合わせて4スタジオをもつ。ソースとなる各地の自然音や、ライブラリーからのCDなどのチェックにも使っている。いずれもデジタル機器なので、コンマ何秒の微妙な頭出しなども容易。

レコーディング・スタジオ

「月のスタジオ」と名付けられたこのスタジオは、現在ナレーションやパーカッションなど生音の録音スタジオとして使用。オデッセイや、セント・ギガズ・シンボルなどのサウンド・ステッカーもここで作られている。

ミュージシャンからクラブＤＪまで。「音の潮流」をデザインするセント・ギガの才能たち

地球上のあらゆる音をＲＥＭＩＸし、壮大なサウンドスケープを届けるセント・ギガ。24時間生放送の「音の潮流」は、各界のプロフェッショナルがスタッフとして集まることで初めて可能となった。知る人ぞ知る業界の「才能」たちの、個性豊かなプロフィールをご覧あれ。

桶谷裕治

桶谷　開局の準備を始めたとき、横井（取締役編成担当）さんと話してたんですね。もう一度メディアの仕事をやるなら、次の時代を創るようなメディアの理想形のような意味あるものをやろうと。

共に民放に表現の限界を感じていたんです。これまでの放送局は、いかに音楽や言葉を並べて注目させるかでしかなかったんですね。いわゆる「配置」の作業。メディアがまるで守りなんです。いい曲や人、言葉などをもってきて紹介するだけでは、僕たちには物足りなかった。

ですから彼とコンセプチュアルな部分はずいぶん話し合っている。編成総論は横井さんが書いた第1稿をもとに、何人かのプロデューサーが意見を出し合いながら第4稿まで手を加えた。オール・オア・ナッシング、この気持ちで取り組んでいましたよ。これがだめならもう放送から全面撤退するつもりでしたね。

今は全体のトーンを創りだすこと、これが大きな作業ですね。僕はそんなコンセプトづくりまでて、具体的な選曲までは携わっていない。だからそれぞれのサウンド・デザイナーの持ち味を考えた場所の配置が重要。その人が一番「生きる」場所を常に考えています。

それぞれの個性が最も輝くことによって、生きた表現は生まれて来る。でも、それが集まると1つのまとまったセント・ギガの音にならなければいけない。

表現って、自己の存在証明といった面がありますよね。「私はここにいる」って叫んでいるような。でも、セント・ギガの表現は、同時に「君がそこにいてよかった」という面を持たなければならない。

相手に耳を澄ますことが、同時に自己表現でもあるような。だから、セント・ギガの表現は、表現者個人の中で完結するものではなく、コミュニケーションであり、集団表現になっていくんです。みんなで、個性を殺すことなく、1つのセント・ギガの音を創りだしていく。

そして僕たちは「音楽」でなく、「音」の表現者でいたい。自然界にあるあらゆる音を調和させ、送り届ける作業ですね。音楽の原点から見直していきたい。セント・ギガも最初はとっつきにくいという人は多いと思います。けれど大きい地球の音の流れの中に身を置きたいという人にとっては、決定的なメディアになると思いますよ。その辺に関しては、自信はあります。

表現の限界点がまだ見えない。嬉しいね。――桶谷

PLOFILE
おけたにゆうじ　1951年生まれ。FM東京に12年間在籍し、番組、CM、イベントなどの企画、制作から広報宣伝にいたるさまざまな仕事に従事。退社後は現セント・ギガ編成局長の横井宏と共にJ-WAVEの番組プロデュース、CM制作、イベント制作、FM東京の編成、番組プロデュース等に携わる。現在セント・ギガのエグゼクティブ・プロデューサー。

石井亮（右）　富家哲（左）

富家　（スタジオで）石井さんがもって来たレコードに合わせて、ボクがシンセサイザーを被せるって方法、面白くて今、気に入ってるんだ。

石井　生放送だからスリルもあるし。

富家　結構ミスってるんだけどね（笑）。でもこういうのって何でもアリでしょ、と勝手に決めてやってる。個々のフレーズというよりうねりが大事。まあ好きなことやらせてもらえてるな、って感じ。

石井　でも普通のステージじゃ、こんな長いソロをとれないでしょ。30分も1時

間もやれないし。
富家　ハードだけどね、面白がってるから大丈夫。
石井　おまけに波の音まで被せちゃって。こうなるとセント・ギガってとんでもないハウス・ミュージック・ステーションっていう気がしない？　ニューヨークのハウスより新しい気がする。
富家　今までできなかったことができるようになったことは確か。でもニューヨークでも、ボクがDJをやっているからね（笑）。
石井　今の自分の価値観って、ハウス・ミュージックもクラシックも同じなのね。

クラシックもロックも同じ素材ね、僕の中では――石井
ライブ感あるハウス・ミュージックなんだ――富家

富家　自然音もそう。ノイズだって。
石井　最近どんなレコードでも、人の「作品」という気持ちがなくなっちゃった。でも特に日本のミュージシャンなんて、自分の書いた曲を壊されるのを嫌がるでしょ。プライドがあるんだね。
富家　単なる素材って意識がないんだもん。でもこういうのって理屈じゃないから。頭で聴かないで、ストレートに聴くと、ああ、こんなことしたいなというのが出てきちゃう。
石井　わかる、わかる。
富家　コンセプトをつくるより、まずチャレンジしていたい。最近は受け手も成熟してきて、うるさくなってきているし。
石井　大きなリズムが出せるのがセント・ギガの強み。まあ音質面で、古いレコードがかけられないのがちょっと悲しいけどね。

PLOFILE
いしいあきら　1965年生まれ。レコーディングスタジオ「サウンド・シティ」からFM番組製作プロダクションに入り、FM東京を中心に人気番組を多数製作。1987年「東京ラジカル・ミステリー・ナイト」でディレクター・デビュー。88年からはフリーランスとして活動。
とみいえさとし　1966年生まれ、プロデューサー、ミュージシャン。現在ニューヨークを舞台にレコードプロデュース、リミックスプロデュースの分野で活躍中。日本帰国時は「GOLD」をはじめ、最先端クラブでDJを担当したりもする。

他の仕事減らしてまで、何でセント・ギガの仕事をやるんだろう――古賀
みんな新しいことが好きだから――広岡

古賀明暢（左）
広岡政行（右）

広岡　そろそろ10月末から始まる（ファッション）ショーのスケジュールが入ってくる時期でしょう？
古賀　入っているけど…。セント・ギガをやるようになって随分セーブしてるんだけど、この季節は地獄だよね。それで広岡君の予定は？
広岡　僕もシーズン5～6本ぐらいしかできないですね。ショーだけじゃなくて、以前は毎日1本ずつ持っていたラジオもいまは週に3本。
古賀　他の仕事減らしてまで、何でセント・ギガの仕事をやるんだろう。
広岡　みんな新しいことが好きだから。いままでこんな放送局なかったもの。
古賀　僕の場合はショーはもちろん、ラジオとかクラブDJの経験が大きいよね。
広岡　ショーでは、音楽を考えるころってまだ洋服が出来上がっていないことが多いじゃないですか。一つのテーマとか、一枚のデッサン画からイメージを膨らませることも要求されるでしょ。セント・ギガと似ていますよね。
古賀　ひとつのイメージでの連続性をもたせるやり方って、放送局のエンターテイメント性とは違うよね。CMもないから分断されない。
広岡　僕なんかワールド・ミュージックなんて騒がれる前からそんな番組ばっかり作っていたんです。でもセント・ギガは、クラシックのあとにハウスもOKみたいな、それ以上の可能性を秘めてる。
古賀　何でも手に入る時代だから、全体をどう気持ちよく流していくかが問題だね。質の高いものが求められる。
広岡　何気ない2曲が並んでも「絵」にしちゃう。さすがに、第一線の選曲家のほとんどがからんでいるセント・ギガです。古賀さんなんて草分けですもの。僕なんて一番最初、2時間分を選曲するのに12時間かかった（笑）。
古賀　でも、それぞれの色、っていうのかな。わかるようになったね。
広岡　誰がやっているのかスタジオにのぞきに行くでしょ、大体当たっちゃう。
古賀　リスナーもわかっているのかな。

PLOFILE
こがあきのぶ　1956年生まれ。「ライズ・バー」でDJをしているときに、四方義朗氏に誘われサル・インターナショナルに入社。ショー音楽の担当をするかたわら、「ピテカントロプス」「クラブD」「GOLD」のDJとしても活躍。現在は音楽製作会社代表。
ひろおかまさゆき　1965年生まれ。六本木のレコードショップに勤めているとき、J－WAVEの開局を知り参加。その後、フリーとしてコマーシャル、FM放送、ファッションショー、イベントなどの選曲、音楽ディレクターとして活躍中。

●今まではクラシックなんか聴かなかったのに、セント・ギガだと自然に聴けるようになった。何か、趣味が広がって得をした気分。（福岡・トリマー・25）

田辺信通（左）
野川和夫（右）

野川　セント・ギガのスタッフのなかにはアウト・ドア派も多いのに、ハードなロケになると何故かぼくらに回ってくるじゃない。
田辺　それほど、変なところが好きだと思われているのかな。
野川　あえて変なところに行こうとは思っていないのに、気がつくと奥へ奥へ入って行っているんだよね。
田辺　その分、温泉博士にはなりました（笑）。
野川　人がからんでいても、山あいで電車がゴトゴトいっている夕暮れの音、なんて綺麗に聴こえてくる音もあるんだけれど、そうした音って少ないからね。

自然の音は無尽蔵にある——田辺
地球の音の遺産を集めているサウンド・ハンターだね——野川

田辺　現場でキャンプしなくちゃならないこともあるし。何があるかわからないこと自体が楽しいんですけれど。でも本当にクマがでてきたらって思うと怖いですね。
野川　僕らにとって録音技術以上に大切なのは、自然の音に対する感受性でしょう。猟師が山で獲物の気配をかぎとり、仕止めるように、サウンドという獲物をハンティングしている気分になることもありますよ。
田辺　向こう岸の岩場がどんな音を反響させるんだろう。そこにはどんな動物が住んでいるのだろう。セント・ギガはそこまで考えてハンティングした音ですよね。
野川　音の風景全体を捉えているのが違うね。音楽、人、動物をどれも等しくサウンド・オブ・ジ・アースとして衛星から送り返す発想がある。
田辺　動物も鳥も人間の気配が消えたとき、彼らが自由に楽しげに出す音は違うような気がする。まだまだ人間が聞いたことがない音がいっぱいあるわけ。
野川　それこそ想像を越えた楽しさ。
田辺　鳥でも雛の時と成鳥になったときでは声が違うし、ヤンバルクイナは殻にいるときから親と鳴き交わしている。自然の音は無尽蔵にある。それを聴いてほしいですね。
野川　でも、環境は1年ごとに変わっている。セント・ギガは、変わりゆく地球の音をドキュメントし、放送にのせたりライブラリーとして残そうとしている。地球の音の遺産を集めている、そんな感じがしませんか。

PLOFILE
たなべのぶみち　1952年生まれ。PR映画会社で10年以上にわたり、動物のテレビ番組の製作を担当。その間に元来の動物好きが高じ、それらが発する音を伝える愉しみを覚える。現在も映画製作に携わっている。セント・ギガではSE取材を主な仕事としている。
のがわかずお　1955年生まれ。長らくディレクターを勤めたFM東京を'90年10月に退社。FM東京当時はクラブ系からロック、歌謡曲まで様々な番組を担当した。R・ストーンズや坂本龍一、小泉今日子等のライブ収録もこなしている。

川崎寛（右）
服部淳（左）

川崎　気持ちいい音楽でありさえすれば、なにやってもいい。これは魅力だよね。
服部　面白い曲をかけたり、構成したりすると、すぐみんな飛びついちゃう（笑）。
去年の11月くらいにも、誰かが宗教音楽をハウスにしたのをかけたの。そうしたら、みんながそれ、やりだしちゃったじゃない。
川崎　日本盤が出たのは、今年の4月くらいですからね。他のところでかけ始めたときには、もう飽きてた（笑）。
服部　でも、そんなことだってOKなんだよね。その時の空気を反映しているわけだから。いちばん新しいものっていうね。
川崎　手法もいろいろできるしね。ハウスのベースになるリズムパターンに、ふっと尺八をMIXしてみたりとか。
服部　川崎さん、よくタイトルに〝浮遊する〟ってつけるでしょう。
川崎　僕は、浮遊する感覚みたいなものを基本にしているから。ゆりかごに乗っているようなね。と同時に、その人の脳内麻薬物質を促進するようなもの。要するにトリップ感覚を味あわせてあげたいの。
服部　わかる。川崎さんのは、トランスというより、トリップなんだよね。ゆったりしてて、1時間2時間かけてどこか別なところにたどり着くみたいな。
川崎　そう。ただ、トリップ感覚の深い浅いのバランスが難しいんだけど。

服部　ハイタイドとロータイドの選曲も、かなりみんなで議論したね。最近は、一番満ちているときにも使える曲は、一番引いているときにも使える曲なって感じてるけど。究極は、ポジティブな曲もネガティブな曲も同じような気がする。潮の一番高いときと低いときは、メビウスの輪のように同じ世界なんじゃないかな。
川崎　いままで使えなかった手持ちの札がいっぱい使えるし。オリジナリティからいったら、アメリカも抜いたかもしれない。あるテイストが底に流れてて、そこにあらゆるジャンルのものが必然性をもって流れている。
服部　いままでの日本のメディアは、アメリカのそのテのメディアのコピー。でも、セント・ギガにはお手本がない。だから変化していく。編成とか選曲とか、いまの空気感みたいなものだけを頼りに、変化していってる。そして、10年先、20年先、どこにいくのかわからない。セント・ギガは生きているメディアだよね。

PLOFILE
かわさきゆたか　1946年生まれ。NHKでTV、FMのディレクターとして活躍した後フリーランスに。アンビエント系ビデオ、ミュージシャンのプロモーション・ビデオ、ドキュメンタリー、FM局音楽番組など音楽をベースにしたオーディオ＆ヴィジュアルの演出家として活躍中。
はっとりじゅん　1957年生まれ。大卒後下北沢のタウン誌編集者、CMの制作、同コピーライター等を経て、'81年テレコムジャパン入社。おもにFM東京やJ-WAVEなどのFM番組制作を担当する。'90年に退社し、フリーランスのサウンドディレクターおよびコピーライターとして活動、現在に至る。

セント・ギガは脳内麻薬物質かもしれない——川崎
空気感だけを頼りに、常に変化していってるよね——服部

岡野弘幹（右）
中田さとる（左）

岡野　中田さんが最初にセント・ギガに来たとき、僕は友達と一緒だったんですよね。ところが、彼女が中田さんとも友達だったんで、さっそくスタジオでセッションが始まってしまった。
中田　セッションなんて大げさな。曲に合わせ、手近にあったものを使ってね。
岡野　紙コップをこすったり……。
中田　小銭の入ったポケットを振ったり。
岡野　楽器というものに先入観を持ち過ぎているとだめですね。そういう意味でみんなが忘れていたのがサウンド・オブ・ジ・アース。自然の音は地球という楽器が奏でる音色だって感じがしませんか。
中田　以前、オカリナ奏者の宗次郎さんの仕事を手伝ったとき、彼のエネルギーって家の周りにある豊富な自然から得ているように思えました。
岡野　昔パンクをやっていた時期に、仲間と吉野の山でキャンプをしたことがあるんです。自然の音だけのところでボーっとしてたら、これしかないって気になったから、僕もその気持ちわかるな。
中田　波を1つとってみても、音の種類やリズムなんかの多様さってすごいし、力強さがある。ですから自然の音を取り込みたいって思っても、ねじふせようという姿勢ではだめ。ちょっと交じらさせていただいてます、といった謙虚さをもたないと。
岡野　確かに自然の音って、人間が考える以上にパワーがあって、雑然とした感じを与えますからね。けど、そこには一定のリズムがあるはずで、僕は演奏など意図的に音をミックスすれば、そのリズムは明確になると思うんですよ。そんな楽器として最近興味もっているのが風鈴。
中田　セント・ギガで放送した屋久島の時は100個だったんですよね。
岡野　風を探して吊すところまでが僕の「演奏」で、吊したら聴くだけ。風鈴に鳥が反応して鳴いたり、最初はバラバラだった風鈴の音が、時間が経って自然の音とうまく混じっていく。
中田　僕の場合、例えば沖縄で録った波の音の後に北海道で録った虫の音を入れてみる。海から陸へ、実在しない島を探検している情景が浮かんできますよね。自分で演奏するときは、その情景の気持ちよさを壊さないようにしています。
岡野　正直な話、極上のせせらぎの音を聴くと、モーツァルトもかなわない、なんて思いますからね（笑）

最近、興味ある楽器は風鈴なんです——岡野
屋久島では100個も吊したんですって——中田

PLOFILE
おかのひろき　1964年生まれ。アンビエント・ミュージックのコンポーザーとして広く演劇、舞踊の音楽を作曲、また、テレビ音楽も手がけている。近年は数多くの風鈴を吊すサウンド・インスタレーションを実践。ドイツI.Cレーベルからアルバムを発表している。
なかたさとる　1961年生まれ。喜多郎、宗次郎等のバックバンドでパーカッショニストとして活躍。'90年10月にラフォーレ・ミュージアムで行われた写真家・石川賢治氏の個展「月光浴」でライブ演奏したのがきっかけとなってセント・ギガに参加。

●歯医者なのだが、診療中に流したいと思っている。患者さんの緊張を解くのにも効果があると思う。（茨城・歯科医・43）

●音もよいけれど、星の話なんかも面白い。夜は必ず聴いています。（北海道・イラストレーター・26）

表情豊かな音との出会いをめざし、ロケ・スタッフは今日も東奔西走。

自然の音をベースとするセント・ギガは、今日もロケ・スタッフが世界各地を回っている。自然音はすべて生録。それは地球上にはプロフェッショナルを感動させるほど、音の原風景ともいうべきさまざまな声が宿っているからだ。

オルカの研究で知られるスポング博士を訪ねる。詳細は28ページをご覧あれ。

波の音に加えて、エザライト森林公園ではハミングバードの声を録ることができた。

ハンセン島
Hanson Island

マルチニーク島
Martinique

タヒチ
Tahiti

トリニダード・トバゴ
Trinidad and Tobago

マウイ島
Maui

パペーテ港の風景や、パイマハタの滝の音をサウンド・スケッチ。

ポイントアピューの波を採集。カリブの波は独特のメロディをもつという。また独特の音階をもつ民族楽器タサ・ドラムの演奏を収録することができた。

情景が目に浮かぶ、鮮やかなサウンド。

　これがセント・ギガのロケーション・スタッフの、自然音収録に対する永遠のテーマだ。彼らはみな同じ想いを抱きつつ、今日も世界を回っている。

　ハッとする音との出会い。日頃、見慣れた風景を新鮮に切り取った、1枚のプロの写真のように。また時に写実画より雄弁にその対象物を語る抽象画のように。そうしたロケ旅行の果てに、彼らは新たな発見に出会う。いわく、風の通り道を見つけた、いわく、波の温度を音に感じた――。

　大地の呼吸する声を収めたいと各地を回るスタッフが見つけたも

●浴室にスピーカーを付けました。バスタブに温泉の素を入れて、ゆったりして聴く気分は最高。一日の締めくくりの行事になってしまった。（千葉・文華葉・33）

リンコン・デ・ラ・ビクトリアの波はたくましくも穏やかな音だった。他にロタの子供達の歌声や、アルムニュカールの虫の声などをレコーディング。

グラン・カナル（大運河）の波を採集。水面に寄り過ぎてスタッフは落ちた。

エーゲ海の穏やかながら多彩な波の表情を収録した。

クタ・ビーチの波をスケッチ。首都デンパサールでは活気あふれる朝の風景を録った。

のは、自然のあらゆる音が音楽のベースになるという発見だ。彼らはハードなサウンド・スケッチのたびに、自然のもつ音の表情に驚かされて帰ってくる。

むろん彼らはキャリアを積んだプロフェッショナルたちだ。その彼らが新鮮な日々を送れるほど、自然は奥深く、神秘に満ちている。彼らはいう。何気ない川のせせらぎが実に多くの感動を与えてくれる、と。彼らが自然の摂理から学んだのは「音の哲学」だ。

そして音は単にサウンドそのものというだけでなく、ヒトの忘れていた感情や記憶を想い起こさせるものでもある。忘れていた音。懐かしい音。どこかで聴いたことのある音――。セント・ギガのサウンドもまた、そんな心に訴えるサウンドを求めてやまない。

豊かな臨場感、ダイナミズム、そしてハーモニー……。シンプルでありながら、複雑で味わい深いリズムを見出だせる自然の声。セント・ギガのベースとなる自然音はみな、スタッフのロケによる自前の生録である。

そうしたセント・ギガの「音の潮流」は、われわれの1つ1つの細胞の中に刻まれている音への渇求を確かめさせてくれる。網膜にでなく、心にリアルな映像が届くことを願って、セント・ギガのロケ・スタッフは今日も各地を訪ね歩いている。

北へ南へ。そこにしかない豊かな音を求めて

日本最北限の波の音を収める。貝がらに打ち寄せる波音の独特のサウンドだった。他に野鳥の声も。

年に数度は訪れて、四季の表情を収録している。オホーツク海上で録る流氷のきしむ音は特に感動的であったとか。

河童淵の川のせせらぎや琴畑の渓流をスケッチ。地元に伝わる民話も収めさせてもらった。

だが彼らも感動のサウンドと引き換えに、各地で失敗談を中心とした数々のエピソードを巻き起こしている。

たとえばイタリア。ヴェネチアでグラン・カナル（大運河）の音を録ろうとしたが、波がフラットで水音がうまく拾えない。水面ぎりぎりまでマイクを伸ばしていくうちに、そのまま全身水に落ちてしまった。日本ではクマに出会わぬことを祈りつつケモノ道を進むうち、夕方までに宿に戻れず野宿するものが続出。

だが辺境の一軒宿ばかりに泊まっているうちに、温泉通になったスタッフもいる。ちょっとした余得というものか。

彼らは仕事嫌いのくせにプロ根性があるので、いい状態の音を録ろうと奥へ奥へと進んでしまう習性をもつ。決してハードなロケにしたくはないし、あえて変な場所に行こうと思っているわけでもな

●自然音がうまく工夫されていて、音楽の流れがよい。(島根・建築家・38)

●星を見ながら聴いていると、優しさや宇宙の広さの感覚が分かる。(埼玉・会社員・29)

富岡海中公園や白鶴浜海岸の波を採集。崎津天主堂ではミサの風景も録らせていただいた。

青木が原の樹海に入っての探検レコーディング。トラツグミやウグイス、フクロウなど主に鳥の声が収録できた。

天草
鳥取
屋久島
四万十川
淡路島
和歌山(潮岬)
寸又峡
安曇野
新島
与那国島
西表島
小笠原諸島

トラツグミの声を録っていた時、何か正体不明の声が。今では英鶏の声ではないかとされている。

い。が、気づいたらとんでもない場所にいた、ということがままあるのだ。かくもサウンドハンティングは辛い商売である。

高品位な音の確保のために使われるのが、プロ・ユースのDAT。デジタルならではの再現性が、地球の鼓動を繊細に感じ取る。だが彼らがどんなに山奥に分け入っても、出会ってしまうのが飛行機や車といった人工音。自然と人工物との対峙は、どんな場所にもつきまとう。自然は必ずしも人間にばかり微笑みかけてくれるわけではない。だからこそスタッフはよりよい音を求め、先へ先へと進んでしまうのだ。

鳥の声にしても、映画ではほんのひと鳴きあれば事足りても、セント・ギガには長時間の音が必要になる。「サウンド・スケープ」となり得る地球の音は、なまはんかな場所ではキャッチできない。

だがこうした苦労の果てに捕まえた「地球の声」こそがまた、辛さを承知でスタッフを次のロケへと駆り立てるのだ。

Photo/Iwane Miyachi

ボクハ、ココニイルヨ ドクター・スポングから届いたオルカのメッセージ

オルカの会話に耳を澄ます。
自然とともに生活する。
スポング博士は、自然と人間の関係に、
ひとつの回答を与えてくれる。

我らがポール・スポング博士は、いつも〝はだし〟だ。

家の中でも外でも、岩場を登るときでも、フカフカした森の腐葉土の上を歩くときも。まるで足の裏を通して、地球とのスキンシップを楽しんでいるかのようだ。

高名なオルカ（シャチの学名）の研究者である博士は、セント・ギガの開局に際して、自然と調和したオルカの生活について、セント・ギガにメッセージを送ってくれた。その彼の生活も、同じく自然とともにある。

彼の暮らすハンセン島は、カナダの西海岸の小さな無人島だ。水はすべて雨水を溜めて使い、海岸に打ち上げられた流木を燃料にしている。電気は太陽電池から得るが、オルカの声を録音するための水中マイクとレコーディング機器以外、使用することはめったにない。暗くなったら、寝るのだ。

こう書くと、ストイックな耐久生活を想像しがちだが、それは大きな間違い。妻のヘレナが毎日焼くパンは、日本ではとても味わえないおいしさだし、流木を燃やして入るサウナとシャワーは快適このうえない。彼のライフ・スタイルは、自然と人間の関係がどうあるべきかについて、ひとつの回答をあたえてくれる。

8月24日の特番で、オルカの幻想的な鳴き声を耳にされた方も多いと思う。博士によれば、その鳴き声も、自然との調和を求めるオルカからの呼びかけだという。

「ほんとうは、会話の内容はまだ研究段階なのです。ただ、鳴き声のはたらきとして次のことは確実にいえます。つまり、自分の存在を相手に教えること。そして相手に対し、敵意を持っていないと伝えることです」

それはハーモニウムの言葉「ボクハココニイル」「アナタガソコニイテヨカッタ」そのものではないか。

彼と話していると、思想と生活がとけあっているのがわかる。頭で考えるのではなく、身体で感じるエコロジーの必要性を、スポング博士の存在そのものが語りかけてくる。

甘夏の経験

フルーツとビールでつくりました。

みずみずしい甘夏が好きで、爽やかなビールののどごしが好き。両方好きなあなたに、サントリーフルーツ＆ビア「甘夏の経験」。甘ずっぱくて、キリッと爽快。のどがよろこぶ新しいおいしさです。

FRUIT＆BEER

フルーツ＆ビア
新発売

「グレープフルーツ交際」「バナナ気分」も揃いました。

各250mℓ/200円 希望小売価格（消費税込み）アルコール分4%
製造・販売サントリー株式会社 飲酒は20歳を過ぎてから。

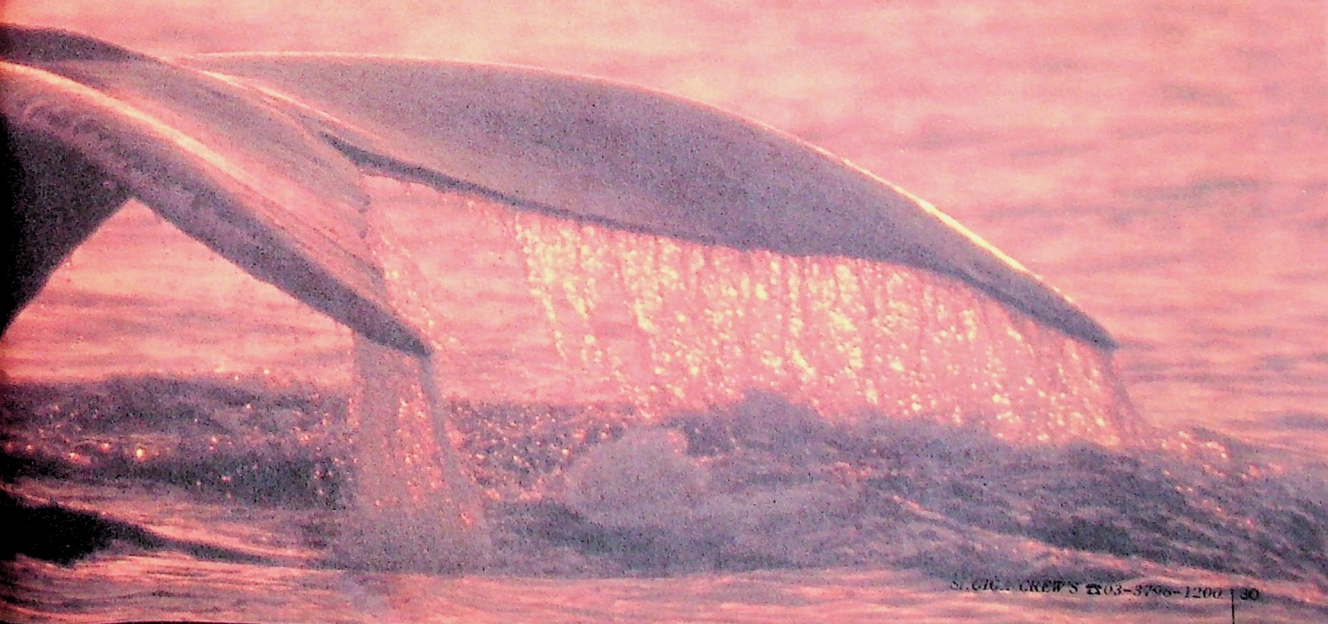
メディアの快感、僕の個的体験

片岡義男

ラジオというものが持つ不思議な魅力への強い共感を、子供の頃から現在まで、僕は持続させている。これからもそれは続いていくことだろう。ここで僕が言うラジオとは、番組を制作して発信させる側とその発信装置のぜんたい、空中を飛んでいく電波、それをつかまえて受信する装置、そしてその装置をとおして再生される番組を聴く人、というひとつの環につながったシステムぜんたいのことだ。

　どんなに魅力のあるラジオも、このようなシステムがなければ存在することが出来ず、すべてはこうしたシステムの内部での出来事でしかない。しかし、魅力のあるラジオは、このシステムを頭のなかから消し去ってくれる。つまみひとつ、ダイアルひとつの小さな箱としての受信セットから聞こえてくる話し声や音楽そして物音だけで作る魔法の世界が、ラジオとそれを聴く人の周囲に生まれる。

　ふとスイッチをオンにしたラジオから、音楽や話が聞こえてくる。誰かがスイッチをオンにしたラジオの近くへたまたま身を置いたとき、耳に届いてくる音楽や人の話し声。それがつまらないものであれば、ラジオが持つ

S. GIGA CREW'S ☎03-3796-1200

不思議な魅力などまったく感じない。陳腐さをきわめたような制作現場を思いうかべて、僕はうんざりするだけだ。しかし、聴覚で受けとめたその瞬間、気持ちをとらえて離さないような力を持った音楽や話であるときには、ラジオとそれを聴く僕とのあいだには、奇妙な快感に裏づけられた一対一の関係がそこに生まれる。

これはぜひ聴こうと思って待っていた番組に合わせてラジオをつけ、その番組のあいだずっと、ラジオだけとむき合って過ごすのは、快感としてなかなか悪くない。日常のルーティーンをこなしながら一定の時間をひとりで過ごすとき、そのルーティーンにラジオを添わせるのも、悪くない。ふと空いた時間にラジオをつけ、ダイアルの端から端まで、いくつもの番組を耳だけでのぞきこんでみるのも、たいへん面白い。人が聴いているラジオの近くで、その番組の小さな断片を受けとめるのも、これはこれで捨てがたい。どれもみな、発信されている番組が魅力的であることが絶対の条件になる。そしていまの日本でそのような条件はほとんど満たされていない。ラジオの快感は、いまの日本にはないようだ。

ラジオという魔法の小箱の魅力に僕が最初に気づいたのは、朝鮮戦争のときだ。ラジオは米軍放送しかない、と生活環境のせいで思いこんでいた子供の頃の僕にとって、ラジオから聞こえてくる音楽とアナウンスメントは、日常生活の背景音でしかなかった。朝鮮戦争の頃になってようやく、僕はラジオの魅力を自分で見つけ得るまでに成長した。魔法の小箱のスイッチを入れると、戦争を中心に音楽やコメディ、クイズ番組などが、きわめて不条理にしかし流麗に、部屋のなかを満たした。

主としてアメリカおよびハワイで、僕はいろんなラジオの現場をかなり見ている。日没から夜明けまでに限って電波を出す、いつもたったひとりですべてを運営しているFM局。朝の七時から夜の九時まで、数人のアナウンサーが交替に局に来ては、送り出しからアナウンス、そしてDJまでひとりでこなす、特定のリスナーだけを対象としたAM局。このようなラジオが僕の好みだ。話に聞いただけだが、エルヴィス・プレスリー専門のラジオがアメリカにはあるらしい。彼の音楽と彼にまつわる話を専門に流す局だ。声のそっくりさんがニュース解説をしたりもするという。

いまの日本のラジオの現状は、一種の惨状ないしは病状だ。FM局の発信側での直接の体験を十年以上にわたって持ったことがあるから、そのおかげで惨状や病状に対する拒絶的な反応は、僕の場合は人一倍強いようだ。魅力のある面白い番組は、五分、十分と小さく刻まれた上で、惨状のなかに埋もれている。だからセント・ギガには、ひとりで秘かに、かなりの期待を寄せている。

世のなかでもっともつまらないラジオは、軍事独裁政権が支配する国での、その政権による一方的な報告としてのラジオだ。いまの日本のラジオは、その次につまらない。ラジオは、基本的には、個的な体験だ。このことを忘れたラジオは、かならずつまらなくなる。

ラジオを聴くのは個的な体験だ。しかし、発信する側は、顔のない不特定多数という一般にむけて、発信してしまう。たまたま発信の側にいるとは言え、自分もまたひとりの個なのだという基本を忘れると、一般多数としての自分たちから、おなじく個の消えた一般という多数の世界にむけて、一般的なことを発信してしまう。音楽を続けて流すにしろ話を聞いてもらうにしろ、ラジオは発信者と受信者との一対一の関係だ。個にかかわるなんらかの不思議な体験、それがラジオだ。

創造人の潮流

〈セント・ギガ〉と共振する9人のクリエーターたち

ここに寄せていただいた9つの声。
それぞれにクリエーター諸氏の個性と、
音楽への高い意識がうかがえます。
創造人ならではの鋭敏な感性が、
セント・ギガをさまざまな角度から語ります。

細野晴臣（ミュージシャン）
HARUOMI HOSONO

セント・ギガの音楽には「過激な静けさ」がある。

音楽というものは予言みたいなところがある。音楽をやっていると、いいことも悪いこともどうしようもなく感じてしまう。地球への関心、湾岸の動きやアルメニア、グルジアなど世界の動きを、ワールド・ミュージックやハウスは確実に予感し、先取りして表現してきた。3、4年ほど前から世界のいろいろなところからチョロチョロ流れ出してきた水の流れが、今では地下水みたいに溜まって確実な力になりつつあるのだ。人々の無意識の中に眠るものを、音楽はいち早く感じていたと思う。それらは未だ、メディアに全然乗っかってこない部分がほとんどかもしれない。かろうじてセント・ギガが取り組みはじめているぐらいで、その動きに僕はすごく期待している。しかし、動きは次第に強い流れになってきていて、将来ははとんどその流れが主流になってしまうんじゃないかとさえ思えてしまう。その予感を一言で言えば「クワイエット」、つまり「静けさ」ってことだ。単に音がない静けさじゃなくて「クワイエット・ストーム」（過激な静けさ）と言っていいのかもしれない。

PROFILE 1947年東京都生まれ。1969年に「エイプリル・フール」でレコードデビュー。70年、伝説のロックバンド「はっぴいえんど」結成。その後、「キャラメルママ」「ティン・パン・アレイ」を経て78年、コンピュータ・サウンドを全面的に使ったY・M・Oを結成。世界中にテクノ・ポップブームを起こす。散開後、ニューエイジ・ミュージックやワールド・ミュージックなど、ジャンルにとらわれず時代に先行する音楽を次々に手がける。

いとうせいこう（クリエーター）
SEIKOH ITOH

「人間は自然の流れの夢をみるか」

音楽も社会の流れと無縁じゃないよね。'80年代を振り返るとわかるんだけど、社会が「無風状態」だったから、音楽は逆に刺激のあるものが求められたんじゃないかな。

その「無風状態」にも、1989年にピリオドが打たれたわけじゃない。不思議なことに、同じころに僕自身の聴く音楽に変化が起こってきたんですね。それらは形式やジャンルを越えた存在で、「クール」あるいは「静かな音楽」と呼べばいいのかな。

「静かな音楽」に共通するのは心の落ち着き、心的な作用が強いこと。ただし、僕が考えるリラックスは〝ある一定した興奮が同じレベルで続く〟ことなんですよ。

P・K・ディックの小説『アンドロイドは電気羊の夢をみるか』では、自らの感情を調整する情調オルガンという便利なものが用意されてたよね。しかし、実世界では〝心地よい興奮〟を得るため、各人が適した音楽を認識してなくちゃいけない。

セント・ギガは、それを月の満ち欠けと潮の満ち干に求めたわけでしょ。それに、音楽を波として乗せてみた。アイデアとしてはすごく面白いよね。

僕のバイオリズムが月や潮のバイオリズムと触れ合ったとすれば、セント・ギガで心地よい興奮ができるんじゃないかな。

PROFILE 1961年東京都生まれ。「ホットドック・プレス」編集部を経て、活字、映像、音楽、舞台、ニューメディアなど、あらゆるジャンルで表現活動を行う。役者では「ラジカル・ガジベリビンバ・システム」の後、今年「根本原理主義者」を結成。'88年にはファミコンギャグ・ユニットを素材とした「ノーライフキング」で作家デビュー。今秋2年ぶりに音楽活動を再開、来春には2作のCDをリリース。

森田芳光（映画監督）
YOSHIMITSU MORITA

帰宅すると、まずテレビのスイッチを点けてしまう。オフィスでも、どこでも必ずテレビが置いてあって、歩く先々でそれを点けて回らないと気が済まないんです。

部屋の中が寂しいという理由もあるんだろうけど、空間が広がっていく感じがあるんですよね。ちょうど、インテリアの奥にイメージへの「窓」がある感じなのかな。

ときどき、自分の気分にそぐわない番組が飛び込んでくることがあるじゃない。そんなとき、イメージが乱されるよね。

反対に、台風情報で情報と関係のない風景で、クラシック音楽を流したりするでしょ。それを心地よく見ていた時期があるんですよ。セント・ギガを聴いたときの心地よさって、それと似てたって気がするんです。

心地よさって、自分のイメージやリズムが邪魔されないことじゃないですか。寂しくなくて邪魔にならない、距離感のあるメディアを求めている。それには、小さなボリュームで繊細な音を聴かせられることが課題になってきますよね。セント・ギガは、そこにすごい可能性をもっている。

いつでもどこでも聴けるセント・ギガだから、今度はテレビのように僕のイメージをかき立ててくれることに期待しよう。

PROFILE 1950年東京都生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒業。'81年「の・ようなもの」で監督デビュー。数々の映画賞に輝いた「家族ゲーム」('83年)は、アメリカでも高く評価された。一作ごとに新しいジャンルに挑み、表現方法の変化を自ら楽しんでいるのが特長。総指揮に当たった「バカヤロー！」は、シリーズ化するヒットをみせた。代表作には「ときめきに死す」「キッチン」「おいしい結婚」などがある。

寂しくなくて、邪魔にならず、距離感のあるもの……。

セント・ギガに音のRAKUENを見つけた。

三好和義（写真家）
KAZUYOSHI MIYOSHI

セイシェル諸島は僕に新しいRAKUENを与えてくれた。

1981年に初めて訪れたセイシェル。空は宇宙のような暗青色。海のもつ色や透明感は太陽の位置によってまったく異なる。こんな島は見たことがない。地球と宇宙のリズムが共鳴しているようだ。

僕は、最高の波がくるのをじっと待った。潮の満ち干とか月の満ち欠けは、それを造ってくれた。自分の考え方や撮影のペースが宇宙のサイクルに乗った瞬間——。

撮影の最後にBGMのためにヘッドフォンをはずした。その途端、波の音、セグロアジサシの鳴き声、風に揺れる樹木の葉音などがいっせいに耳に飛び込んできた。

今度は目を閉じる。そして目を開ける。そこで波の音に気持ちを集中する。心地よい波のリズムが音と一緒になったとき、映像にはかつてないほどの臨場感が広がる。

僕は音のRAKUENをも手に入れてしまった。

南の島では、波の音に重ねてクラシックを聴く。

セント・ギガは、都会にいながらそんな南の島にいる気分になれる。

PROFILE 1958年徳島県生まれ。'75年に16歳で「二科展」入選、注目される。自らのテーマを決定づけたのが、'85年に発表した写真集「RAKUEN」であり、'91年の写真集「RAKUEN ON EARTH」へと受け継がれる。'86年には最年少で「木村伊衛兵賞」を受賞。また、昨年のヒマラヤ行きを契機に、宇宙にも魅かれ天体写真にも進出した。

視覚よりも「声」や「音」に気持ちが魅かれる。

矢野顕子（ミュージシャン）
AKIKO YANO

人間の感覚の中でも、視覚と聴覚と嗅覚っていうものがもっとも大切だと思う。ただわたしの場合は、風景を見たときにも、眼から受ける情報が直接に結びつくのは、音じゃなくて匂いだったりするんです。音というのは、眼から入る情報とは別の経路があるんじゃないのかな、と思っています。

わたしは、非常に雄大な風景を見たときに、そこに音を付けたいとは思わない。音から風景を連想することは、わたしにはあまり価値のあることではなくて、音なら音そのものを純粋に楽しめてしまう。

小さいときから眼が悪くて、視覚よりも「声」で人と接していた。だから、眼から見えるものより、「声」や「音」の方を信用している。小さい頃に青森で育ったわたしは、青函連絡船の汽笛のボーッて音を聴くと、なぜか胸がきゅーとなる。音と記憶が深いところで結びついているんですね。ニューヨークで暮らすようになって、緑が多い環境なので、心がなごむ。書く詞が、以前とは変わってきているように思える。人の気分と音楽は互いに影響し合っているんだと思います。

PROFILE 1955年東京生まれ。'73年、ティン・パン・アレイ系を中心に、多くのスタジオ・セッションに参加。'76年ファースト・アルバム「ジャパニーズ・ガール」で衝撃的なレコードデビューをし、同時に初コンサートを渋谷で開く。'79年、'80年、YMOの海外ツアーに参加。翌'81年のCMソング「春咲小紅」は大ヒットとなる。'82年から「出前コンサート」を開始。'91年にはコンサート出演のため一時帰国。ニューヨーク在住、二児の母。夫君は坂本龍一氏。

●世界中の人がセント・ギガを聴いていれば、戦争や環境破壊なんてなくなると思います。（宮城・中学生・14）

●放送が流れると、ペットのオウムが落ち着く。（東京・OL・30）

僕もセント・ギガで選曲をしてみたい、というのも…。

手塚眞 (ヴィジュアリスト)

MACOTO TEZKA

セント・ギガを最初に聴いたとき、特別の放送局という印象を受けませんでした。僕が普段聴いている音楽がクラシックもあれば、現代音楽や民族音楽も、もちろんロックやジャズ、さらには自然の音まで様々なジャンルにまたがっているからです。

ただ、そうした放送局がなかったから、自分でCDを選び、音楽を聴いていたんだと思います。

・僕は自宅に来客があったとき、そこにかかる音楽は僕と客を繋ぐ懸け橋のような存在であって欲しいと考えています。それは、音楽のルーツがコミュニケーションだという認識があるからです。音楽は人間同士ばかりでなく、人間と自然、人間と環境とをコミュニケートしています。

人間や自然は、それぞれ特定のリズムや波長を発します。そして、同じ波長を持った人間が体内のセンサーで相手の波長をキャッチできるのでしょう。例えば、鳥の声を通してその環境と心的コミュニケーションを図るように。

セント・ギガは音楽ではなく、音という概念で選択する自由さを持っています。だからこそ、僕も一度自分の選曲で人とコミュニケートしたくなったメディアです。

PROFILE 1961年東京都生まれ。成蹊高校卒業後、日本大学芸術学部映画学科入学。高校在学中に撮った、初の8ミリ長編映画「FANTASTIC★PARTY」が大島渚氏、大森宣彦氏らに絶賛される。その後、映画「星くず兄弟の伝説」、ビデオ作品「妖怪天国」を監督する。'85年より自らの肩書きを「ヴィジュアリスト」と命名したが、最近は映像にとどまらず音楽プロデュース、執筆など幅広い表現活動を手がけている。

セント・ギガは和楽器に似ている。

坂東八十助 (歌舞伎俳優)

YASOSUKE BANDO

私が生まれ育ってきたのは、常に三味線の音が鳴っている、そんな家なんです。古い人間なのかも知れませんが、「静か」なところが一番ほっとさせてくれますね。

そんな私でも、ワッと騒ぎたくなるときがあるものなんですね。先日の大阪の天神祭で知らされました。船の上で太鼓と鐘が鳴り合っている様子にドキドキしてしまうんですよ。ロックを聴いて血が騒ぐ、という経験はなかったのに、私の中にも熱狂する血は流れているんですね。

祭囃を聴いていると、まず音楽があったんじゃなくて、人間の気持ちが自然とそうさせていると感じさせられます。そこには、人との関わりがあるように思うんです。

音楽は静かでもいいし、賑やかでもいいんだけど、ふと人間に戻れる場所であってほしいと思いますね。ただ、革や木でできた和楽器の奏でる音は、精神をそこに導いてくれやすい音という気がしています。

人は自分が優しくならないと、人には優しくできないことを知っていますよね。しかし、日本人は特にそれを忘れがちです。そんな日本でセント・ギガが誕生したことは、非常に意義があると思っています。

セント・ギガを聴いてみて、和楽器に似た音の響きを感じさせられました。

PROFILE 1956年東京都生まれ。"踊りの神様"と言われた七代目三津五郎を曽祖父にもつ。代々舞踊の血筋にあり、6歳で歌舞伎座にて初舞台を踏む。元来の二枚目役には定評があったが、最近は「鳴神」の鳴神上人などで荒事芸に、「お染久松」のお染で女形に挑戦、新境地を開拓している。テレビや映画の出演も多く、親しみやすい歌舞伎俳優として人気がある。

心の中にある大きなうねり、それが俺の「アコースティック」

比嘉栄昇 (ミュージシャン)

EISHO HIGA

これまでにアルバムを2枚出して、ようやくBEGINの場所というものが見えて来た。いわゆる、音楽が「生きてきた」。血が通ってきたとでもいうのかな。うまい、へタでなく、自分の音というものになってきつつある。東京という場所が随分楽に過ごせるようになったせいかもしれない。

時計をもたなくなって随分になる。時間の区切りって身体や心の状態とは別ものでしょ。島に住んでいたからなのかもしれないけど、大きなうねりが気持ちいいんだ。そんな身体の求めるものに正直でいたいね。

俺たちアコースティック・バンドではあるんだけど、「アコースティック」っていうのは決して演奏スタイルでなくって、心の状態なんだ。音楽って考えてするものじゃないでしょ。自分にとってはほっとする時間であったり、気持ちがたかぶる時間。飾らない気持ちで歌えたり、正直でいられる、そんなプレーンな状態でいたい。

アーティストだけじゃないと思うけど、とにかく体力とか精神状態って重要。とにかく自分が豊かでないと歌えないですよ。仕事でも構わない、今は旅に憧れますね。移動といったものが僕には必要。人と出会う、緑の中に立つ。そうした行為が次へのステップへとなれる。

PROFILE 1968年沖縄県生まれ。同郷の友人たちと予備校通いのために上京するも、やがて彼らと組んだ「BEGIN」の活動が中心となる。'89年、「いかすバンド天国」に出場し、いか天キングを受賞。これを機に昨年プロ・デビュー。これまでに2枚のアルバムを発表している。11月にはサードアルバムが完成、12月にはコンサートも予定。

セント・ギガがイマジネーションをかき立てる。

山口令子 (ジャーナリスト)

REIKO YAMAGUCHI

私たちは海で聴いた潮騒とか、山で聴いた風とか、実に多くの音の体験をしていますよね。同時に、たくさんの人工的な音も表面的な意識に飛び込んできます。そうした音が、深層意識にある地球の動きを感じる能力を消し去っていると思うんです。

気功家として様々な修行をしているんですが、瞑想や気功は普段は眠っている潜在能力を発揮しやすい状態にしてくれます。リラクセーションが肉体のくつろぎであるのに対し、瞑想は意識の高揚であり、意識の覚醒なのです。

そして、音や匂い、風などに対する感覚が研ぎすまされてきます。さらに、振動とか小刻みな揺れのように地球の息づかい、あるいは宇宙がうねりということまで感じられるようになるのです。

瞑想状態に入りやすいように音楽を使います。瞑想音楽と一概にはいえませんが、水の音のような自然の音を聴くことで集中しやすくなるようです。

セント・ギガの音楽を聴くと、私たちが持っている様々な本質的な能力に優しく語りかけ、心の琴線を揺さぶってくれる感じがします。ずっと聴いていると懐かしい気持ちになってきます。私はイマジネーションがかき立てられる感じがしました。

PROFILE お茶の水女子大学大学院博士課程終了。専攻は社会心理学。アジア問題や女性問題に関する評論が多く、米国イリノイ州立大学留学の経験を活かし、テレビ朝日「CNNニュース」と「ニュースステーション」でキャスター、レポーターを務めた。気功家としても知られ、瞑想・気功法の指導や関係書籍の発表も行っている。

新鮮ドクダミ草。生薬の良さをお試し下さい。

ドクダミ草を、この1本に凝縮。

ドクターワイン1本(720mℓ)には、約10kg分の新鮮な生ドクダミ草を原料に使用します。生葉の良さが凝縮されているのです。1日に1回、毎日続けて少しずつお飲み下さい。

原料はドクダミの新鮮生葉の青汁。

ドクターワインは、ドクダミ青汁80%。蜂蜜20%が原料。ドクダミ本来の大切な成分を損なわないよう、新鮮な生葉を搾ります。生葉に含まれる様々な優れた成分がそのままいきています。
ドクダミ青汁に蜂蜜を加えただけで自然発酵。各種ビタミン、ミネラル、鉄分などがバランス良く含まれ、口あたりの軽い、まろやかな飲み口、高アルカリ度の健康酒に仕上げました。

1991年度のグランプリ受賞。
(ヨーロピアン・エクセレンス・グランプリ)

「ドクターワイン」がこの栄えある賞に輝きました。優れた商品性と確かな品質。健康と美容に役立つ、日本人の生活のチエ「ドクターワイン」が海外でも称賛されました。

ドクターワインは世界で初めて商品化されたドクダミ健康酒。

永い経験と伝統の技術。信用の実績。ドクターワインの確かな良質さに、愛飲者の声は途切れることがありません。

720mℓ　4,000円(税込)

ドクダミ健康酒

ドクターワイン

山梨薬研株式会社　山梨県東山梨郡勝沼町菱山4730
☎0553-44-0326

これからの私にあっている。

まず、聴いてみることからはじめよう。

〈セント・ギガ〉が自然の運行に沿って放送していることや、世界中の様々な音をミックスして、新しいミュージックを作りだしていることなど、ここまででわかってもらえたと思う。
そしてもうひとつ大事なことがある。
〈セント・ギガ〉は、契約したメンバーだけが聴くことができる有料放送だということだ。
では、どうすれば〈セント・ギガ〉のメンバーになれるのか？
そして、よりよい音で〈セント・ギガ〉を楽しむには？
そこでHOW TO ENJOY St.GIGAである。

Qセント・ギガってどんな意味？

A 〈セント・ギガ〉とは、衛星デジタル音楽放送のステーション・ネーム。その名の通り、衛星から送られてくる音楽専門の放送局です。

〈ギガ〉は10の9乗、つまり10億を表す単位で、語源はギリシャ語。「巨大」「巨人」という意味をもっています。

また、衛星放送はGHz（ギガ・ヘルツ）帯を使っています。そのシンボル的な言葉に、〈セント・ギガ〉（St.＝Saint）という象徴的な冠をつけました。

〈セント・ギガ〉は、BS5チャンネルの独立音声モードを使用しているので、CD並みのクリアな音質が、全国どこでも楽しめます。

Q画面はでないの？

A 〈セント・ギガ〉は、BS5チャンネルの「独立音声モード」を使用している音声のみの放送局です。

BSチューナーで受信するから、テレビだと思われがちですが、〈セント・ギガ〉は音声だけの放送局なのです。

衛星放送というと、映画やスポーツのイメージが強かったけれど、そのすばらしい音質を100%活かした〈セント・ギガ〉がスタートしたことで、あなたのBSライフをもっと充実させることができるでしょう。

Q世界初の有料音楽放送って聞いたけど、料金はいくらなの？

A 〈セント・ギガ〉の聴取料は1ヵ月につき600円（税別）。1年分7,200円を一括前払いとなっています。

〈セント・ギガ〉には、この聴取料以外に入会金などは、一切必要ありません。年に1回の口座引き落としで済むので、うっかり忘れてしまうような心配も無用です。

この聴取料を高いと思うか、安いと思うか？　今までにお金を払って聴く放送局などなかったから、当然の疑問です。

でも、考えてみれば、600円といえばシングルCDよりも安いし、今どきコーヒー一杯だってそれぐらいしてしまう。好きな音楽を聴くためにCDを買ったり、コンサートにいくのと同じように、本当に良いものなら、放送だってお金を払って受信する時代になるのではないでしょうか。

●休日の午前中に聞いていると、だんだんオフタイムの自分に戻るような気がします。休日にぴったりの放送ですね。（埼玉・デザイナー・37）

●毎朝セント・ギガで目覚めています。放送を聴くと頭がすっきりします。（東京・会社員・38）

Q〈セント・ギガ〉を試しに聴く方法ってないの?

A 〈セント・ギガ〉では、私たちの「音の潮流」をより多くの皆様に聴いていただくために、週に2日ずつ試聴日（スクランブル解除日）を設けています。BSアンテナ・BSチューナーをお持ちの方でしたら、どなたでもお聴きいただけます。

契約しようかどうか悩んでいるアナタ、とにかく、まずいちどお試しください。もちろん無料でお楽しみいただけます。

試聴日（スクランブル解除日）予定
11月　土曜　2、9、16、23、30日
12月、1月　日曜　3、10、17、24日

スペシャル・プログラム
12月21日の満月から1月5日の新月まで「聖・セイント」というテーマで16日間に渡ってずっと聴くことができます。

Q スクランブル解除日に、〈セント・ギガ〉を聴くにはどうしたらいいの?

A WOWOWに加入している方は
①BS5チャンネルにあわせて（JSB視聴状態にして）ください。
②JSB BSデコーダの音声選択ボタンを押してください。これだけでOK。簡単でしょ?

A WOWOWに加入していない方は
①BS5チャンネルにあわせてください。
②BS機器「独立音声ボタン」を押してください（デコーダを取り付けている方は、BSチューナーの独立音声ボタンを押しても関係ないのでご注意ください）。

「独立音声ボタン」は、メーカー機器によっていろいろな呼び名があるので、自分のBSチューナーに次の一覧表を参考に、ぜひ、捜してみてください。

[セント・ギガ]を聴くための
BS・独立音声ボタンは、
BS機種ごとに、こうした表記名となっています。

●TV/独立●TV/EXTRA●テレビ/独立●TV/ADD
●テレビ/ADD●テレビ独立●オーディオモードA
●テレビ音声[ボタン]独立●独立●EXTRA●TV/EXT
●独立音声[ボタン]テレビ音声●TV-ノーマル/独立-ソフト●TV/独立

撮影:Edward.M.Hames／衣装協力:プリンチペ・バンビーノ☎03-3402-0133、ヤンシーファッション☎03-3498-5671／スタイリング:中川みどり

〈セント・ギガ〉ステップアップ活用術

オーディオ・システムにつないでグレードアップする。

〈セント・ギガ〉は、PCM音声放送、つまりデジタル音源がそのまま放送されるという画期的な放送局。当然のことながら音質がすばらしく、まるでCD並み。FMなんか比べモノにならないほど良いのである。だからこそ、オーディオ・システムに接続して、より良い音で楽しんでもらうための、ステップアップ活用術である。

●ステレオへの接続方法（BSデコーダの音声出力端子から直接ステレオに接続します。）

BS内蔵テレビの場合

BS内蔵TV　VTR　BS デコーダ　ステレオ

①FM検波出力　②ビットストリーム出力　③FM検波入力　④ビットストリーム入力　⑤映像出力　⑥音声出力　⑦映像入力　⑧音声入力

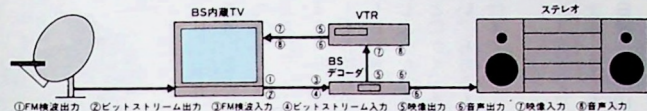
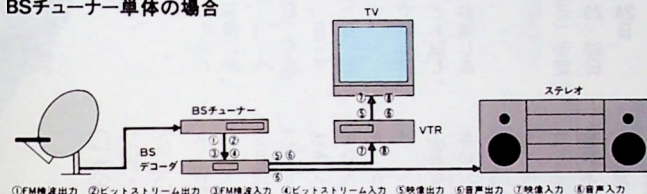
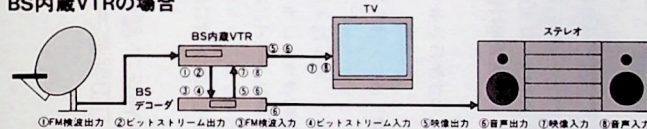
BSチューナー単体の場合

TV　BSチューナー　BS デコーダ　VTR　ステレオ

①FM検波出力　②ビットストリーム出力　③FM検波入力　④ビットストリーム入力　⑤映像出力　⑥音声出力　⑦映像入力　⑧音声入力

BS内蔵VTRの場合

BS内蔵VTR　TV　BS デコーダ　ステレオ

①FM検波出力　②ビットストリーム出力　③FM検波入力　④ビットストリーム入力　⑤映像出力　⑥音声出力　⑦映像入力　⑧音声入力

結果その1　音質が飛躍的に向上する

つなぎ方は簡単。デコーダ、または、BSチューナーの音声出力から、自分のオーディオ・システムの空いている入力に接続するだけで良いのです。

ここにBS機器の代表的な接続例を3つあげました。ここで注目して欲しいのが、デコーダの出力部分。映像、出力とも2系統あるので、これを活用すると簡単に接続することができます。

まず、テレビ、ビデオなどとデコーダを、WOWOWを受信できるように接続した後、デコーダの空いている音声出力端子から、ステレオの使っていない入力端子（例えば、BS、TV、AUX、LINE）に接続します。

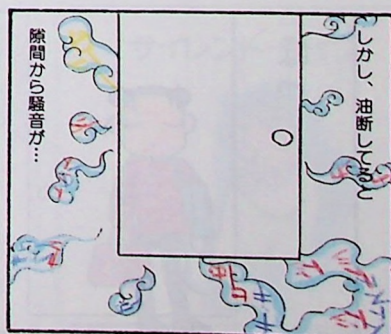
あとは、BSチューナー、デコーダを〈セント・ギガ〉受信状態にして、ステレオを接続した入力にあわせるだけで良いのです。これで、より拡がりのある「音の潮流」を感じてもらえることでしょう。

結果その2　画面を消せば音の世界が拡がる

また、このように接続することで、テレビの画面は消したまま〈セント・ギガ〉を聴くことができるようになります。

まず、BS内蔵テレビの場合、タイマー録画をセットする要領でチューナー部の電源だけ入れるようにすれば、画面を消したまま音だけ聴くことができます。

それ以外の場合は、単純にテレビの電源を入れなければ良いのです。

このようにBSとオーディオをセットするだけで、「音の潮流」は、より純粋に感じていただけるに違いありません。

〈セント・ギガ〉の正しい加入法

さて、これで〈セント・ギガ〉もひととおり聴いてもらえたし、気に入ってくれた方も多いはず。そこで、〈セント・ギガ〉をいつでも聴いていただけるよう、加入方法をご紹介しよう。

加入した方だけが聴取できる有料放送

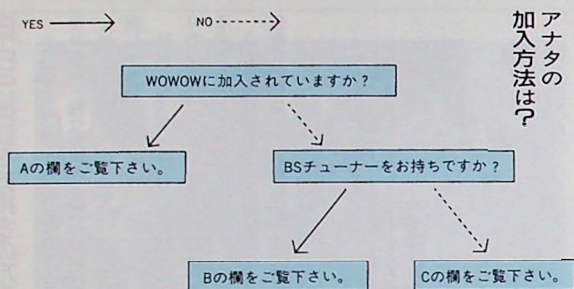
〈セント・ギガ〉は、電波をスクランブル（撹乱）して放送しています。そのため、聴取されるには、BSアンテナ、BSチューナーの他に、電波を正常な状態に戻すデコーダが必要です。

デコーダはJSBに加入後、無償供与されるものと共通のものです。

聴取料は月々600円（消費税別）、加入料はありません。

アナタの加入方法は？

YES ──→　NO - - - →

- WOWOWに加入されていますか？
  - YES → Aの欄をご覧下さい。
  - NO → BSチューナーをお持ちですか？
    - YES → Bの欄をご覧下さい。
    - NO → Cの欄をご覧下さい。

A WOWOWに加入している方へ

衛星放送のすばらしい音質を100%生かした、音楽放送局〈セント・ギガ〉は、WOWOWのメンバーならどなたでも月々600円（年1回7200円前払い・消費税別・加入料なし）でお楽しみいただけます。

加入方法

JSBのデコーダをお持ちの方なら、〈セント・ギガ〉は、ハガキ（とじ込み加入申込ハガキ）一枚でお申し込みになれます。

その際には、デコーダーD番号のご確認をお忘れなく。

デコーダーD番号は、保証書、または、デコーダ左底面部に貼付してあります。

お申し込みから聴取されるまで

1. とじ込みの加入申込書ハガキに必要事項をご記入の上ポストへ投函してください。
   ↓ ハガキ受付より7〜10日
2. 有料放送開始の案内書がお手元に届きます。＊スクランブル解除信号を送信する期間が記載されています。
   ↓ ハガキ受付より半月〜1ヵ月
3. 聴取料お支払い書がお手元に届きます。必要事項をご記入の上ポストへ投函して下さい。
   ↓
4. 有料放送サービス開始

＊有料放送サービス開始日は、お客様がお申し込みになられました翌々月1日となります。その日より1年間がお客様との契約期間です。

●画面を消すために、BSチューナーをステレオに接続して聴いています。（東京・翻訳家・31）

●自分の好きな映画を見ながら、音はセント・ギガを聴くとすごくいい。特に真夜中は最高。（長野・ツアーコンダクター・27）

B BS機器をお持ちの方へ

〈セント・ギガ〉の試聴日にBS5チャンネル・独立音声をお試しいただき、〈セント・ギガ〉の「音の潮流」をお楽しみください。

毎日〈セント・ギガ〉をお聴きになりたい方は、まず、JSBにご加入する必要があります。

JSBへは、お近くの電気店（JSB指定代理店）でお申し込みください。

C BS機器をお持ちでない方へ

ふたつのNHKにWOWOW、そして〈セント・ギガ〉も加わったBSワールド。放送衛星のクリアな映像と音声を100％いかした、魅力的なプログラムが満載の衛星放送番組が始まっています。

スポーツ、ライブ、映画、そして〈セント・ギガ〉のリラクセーションあふれる「音の潮流」。BSワールドはいま最も刺激的なメディアです。

『夢の潮流』 横井宏 著

セント・ギガの骨子である編成総論が単行本として刊行されました。未来に歩むべきメディアの意志が、［タイド・テーブル］とともに綴られています。21世紀のメディア論を知るうえでも、ぜひご一読ください。講談社第1出版センターより発売中。定価2600円。

〈セント・ギガ〉インフォメーション

聴けば聴くほど奥が深いのが〈セント・ギガ〉。情報を手に入れれば、まだまだ〈セント・ギガ〉の世界は広がっていくのである。

「タイド・テーブル」発売

刻々と変化する、自然界の動きをひとつの波形リズムにトレースした「タイド・テーブル」。

この〈セント・ギガ〉の選曲フォーマットを、各月ごとに美しいポスターに表現しました。カレンダーとしてもご利用いただけます。

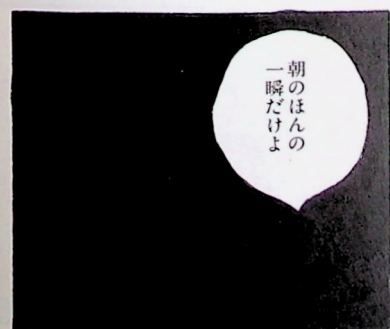
この「タイド・テーブル」をご希望の方に、一部2,575円（税・送料込）にてお届けします。お申し込みは、セント・ギガ クルーズまでお寄せください。

曲目インフォメーション

24時間、生放送でお送りする〈セント・ギガ〉の音の潮流。そこで、曲名、アーティスト名、CD番号などを、電話にてお応えするサービスをまもなく開始する予定です。ご期待ください。

パソコン通信、開設中

NECのPC－VANにて、「衛星放送局セント・ギガ」を開設し、様々なサービスを提供しています。毎日の番組表、スペシャル・プログラムの案内、曲名インフォメーション、推薦CDリスト、プレゼントやイベント告知など、ウレシイ情報満載です。

スラッシュメタルのテープをフル・ボリュームでタイマーセットしておくの。

小鳥の声やタンジュリン・ドリームは、やさしすぎて、私を起こしてはくれないわ。

●朝、会社にいくときはJ-WAVE。でも、夜帰ってくるとずっとセント・ギガを聴いています。(東京・プログラマー・25)

●受験勉強をしながら聴いているが、番組で切れずにずっと連続して音楽が流れるから心地いい。(群馬・受験生・19)

運営　NEC　PC-VAN事務局
TEL　03-3454-6909
入会金　3、000円(税別)
会費　接続料20円/3分(有料制・税別)

自然音とパーカッションとの即興演奏。各地でセント・ギガの「音の潮流」を実演

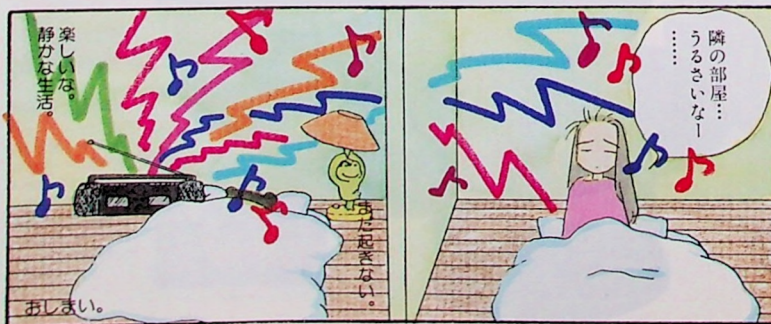
今年の8月15日から18日まで、東京・汐留の東京バーンで「セント・ギガ　波の音、地球の声」というイベントが行われた。これはセント・ギガの「音の潮流」とそのコンセプトを、肌で感じてもらおうというもの。いわばセント・ギガの出張放送だ。

会場となったホールは、ふだん300人収容できるほどのスペース。その中のほとんどの場所に畳を敷き、傍らにハンモックやベンチなどを並べるなどしてリラクセーション・スペースとした。観葉植物の緑やオブジェ、そして少し暗目の照明が目に優しく、おちつき感を与えている。

セント・ギガ・サウンドは、天井と四方の壁に埋め込まれたスピーカーから奏でられていった。波の音をベースとして流し、それらに合わせて会場の一角で、パーカッションや蛇味線などを即興で被せていく。そんなインプロヴィゼイションは、ミュージシャンであるセント・ギガのスタッフによって行われた。

それはプレイというより、音色を宙にたゆたえるような何気ないもの。だが一見単調に思えるメロディがいつしか大きなうねりの中でダイナミズムをもち、また長い時間をかけて音が消えていくという、大きなタイドを生み出した。

「東京バーン」はテーマパーク的なショールームであり、ホールを訪れた人々は当初、会場内のすることのなさに戸惑いの表情を隠せないでいた。が、やがて次第にその緩やかな時間の中に身を委ねていくうちに、その空間に溶け込んでいったようだ。備え付けの写真集を眺めたり、小声での会話など、それぞれのリラックス・タイムを楽しんでいた。柔らかな表情で会場を出ていくお客様の顔つきが印象的であった。●

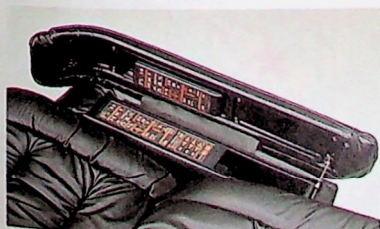
このような「セント・ギガ」を体感するイベントは、今後も各地で行う予定です。

セント・ギガをもっと感じるための「環境」グッズたち

セント・ギガのハイクオリティな「音の潮流」を満喫したい。だからリラックスしながら、より快適に楽しめるツールをピックアップ。ほとんどの製品は〈セント・ギガ〉による通信販売も行っている。

究極のリラクセーション・チェア

アルビ・スーパーチェアーXはボディソニックを内蔵した、本革製のリクライニングチェア。従来の指圧、たたき、ローリングなど多様なマッサージ機能だけでなく、すばらしいサウンドにより身体全体をケアする。これらが効果的に設定された独自のプログラムは、リモコンでくつろいだ姿勢のまま操作が可能。なお価格は885,000円(フットレストは別売で70,000円)。詳細および問い合わせはセント・ギガまで。

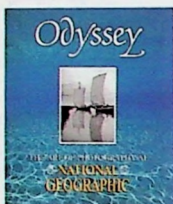
はじめて聴いたときは、自然の音が耳障りだったが、今では、ただCDを聴くよりもセント・ギガの方がいい。(島根・自営業・42)

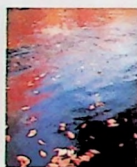
4才になる子供が、幼稚園から帰ってくると、自分でスイッチを入れて聴いています。(大阪・主婦・32)

優れた洋書も地球を感じさせてくれる。

セント・ギガを聴きながら眺めてほしいビジュアルブックたち。いずれも世界中で話題の写真集ばかりだ。

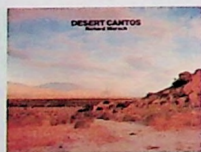
Odyssey

写真を通して自然や人間の足跡をつづってきた雑誌「ナショナル・ジオグラフィック」の発行元の100周年を記念した写真集。遥かな時間の流れが、289葉の写真を通して浮かび上がってくる。(THOMASSON-GRANT、THE CORCORAN GALLERY OF ART)

In Wildness Is the Preservation of the World

"In Wildness Is the Preservation of the World"

エリオット・ポーターの実質的なデビュー作ともいうべき写真集。「森の生活」(ヘンリー・D・ソロー)からの文章と写真が一体となり、すばらしい自然の世界を描き出す。(SIERA CLUB BOOK)

CAPE LIGHT

メイエロウィッツが描き出した「辺境」の地のニューカラー・フォトグラフィ。風景もさることながら、浜辺のポートレイトは必見。(NEWYORK GRAPHIC SOCIETY)

DESERT CANTOS

R・ミズラックによるハイ・デザートの写真集。何百年という月日を経てひからびたドライ・レイクは、不毛でありながら美しい。(トレヴィル)

WRITTEN IN THE WEST

ロード・ムービーの第一人者ヴィム・ヴェンダースが印画紙に焼き付けたアメリカ中西部の断面。写真家としての彼の目の確かさがここにある。(SCHIRMER/MOSEL)

浮遊感覚に包まれてのミュージック・リラクセーション

メキシコのマヤ族が作りだしたマヤンスタイル・ハンモックをベースに、人間工学的な改良を加えて快適性を高めたハングアウツ社のハンモック。その秘密は1000本以上もの綿糸を細かく編み上げた、安定性の高さによる。民族色溢れるデザインは現地の手編み製。価格は全長310cmのSサイズが20,000円(商品番号①)、400cmのMが25,000円(同②)、420cmのLが30,000円(同③)。いずれもフックなど専用キットつき。なお専用の組立式ステンレススタンドは98,000円(同④)。

●オール・ハンドメイドのため、色・柄は写真と異なる場合があります。

ビジュアル・ブックでマインド・トリップ

良質なネイチャー写真は都市にいながらにして、しばし心の旅が堪能できる。ここに挙げた3冊のビジュアルブックはいずれも文庫判上製。傍らに置いて気軽に眺めたい。セント・ギガのよいバックグラウンドビジュアルとなろう。白保(撮影=中村征夫、商品番号⑤)、あおぞら(撮影=宮嶋康彦、同⑥)、森(撮影=岡田昇、同⑦)。共に情報センター出版局刊。定価各1,300円(税含)。

セント・ギガ・スピリットが集約されたオリジナルグッズ

セント・ギガの音の潮流に共感していただいた方に、ぜひお薦めしたいスタッフ・グッズ。背中と胸に大きくロゴマークの入った特製ブルゾンは、バッツォ・クラブ製でデザイン性に富んでいる。対してオリジナル・タオルはハーモニウムのメッセージが入ったスピリチュアルなもの。価格はブルゾンが38,000円(商品番号⑧、限定5枚)タオルが1,000円(同⑨)。

spiral market

逸品ばかりが集められた、
スパイラル・マーケットのグッズたち。
なかでもとりわけセント・ギガの
スピリットが感じられる商品を、
厳選してここにご紹介。
今回特別に
通信販売のシステムを整えました。

独特の透明感が心を和らげてくれる

透明ななか、どこかはかない独特の色の混じったオパールのオブジェ。ペーパーウエイトにもなるが、機能性を求めないほうがいい。球タイプは2,500円（商品番号㉘)、しずくタイプがペアで3,000円（同㉙)。限定各30。

スティングではないがガラス瓶に夢を託して

「ビクトリア　ビューイングジャー」は貝がらを収めたミニチュアのガラス瓶。単なる飾り物でなく、真上のふた部分がレンズになっている。たまに覗いてエキゾチックなシーンに出会ってください。3,500円（商品番号⑰)。限定20。

連続する時間の流れを具現化するフシギ時計

「クロノ10」は砂時計ならぬ、ヒミツの液体による10分計。ゆったりと過ぎる時間の流れが、透明な形になって表れる。価格10,000円(商品番号㉚)。限定20。

急がず、あわてず。何でも腰を落ち着けてトライ

その名もずばり「シッティング・アニマル」。どう猛な動物たちもこんな格好じゃカワイイ。忙しくてもあわてず、じっくりと腰を据えて、と語っているようだ。ちょっぴりエスニックな色遣いもリラックスした印象を与える。各2,900円。(商品番号はトラ⑱、キリン⑲、ゾウ⑳、シマウマ㉑、ライオン㉒、ペンギン㉓)。限定各30。

心なごむオブジェを身の回りに置いて

ガラス製の小さな雲のオブジェ。雲の部分には水が入っており、デスクの傍らにでも置いて眺めたい。クリアタイプとフロストタイプ、それぞれS、M、Lと3種類用意。価格はクリアタイプのSが7,000円（商品番号⑩)、Mが8,000円(同⑪)、Lが9,000円（同⑫)。フロストタイプはSが8,000円(同⑬)、Mが9,000円（同⑭)、Lが10,000円（同⑮)。限定各20。

目に鮮やか、ポップな一輪刺し

花を立てなければ一瞬何か分からない一輪刺し。ペーパーウエイトとしてもなかなかおしゃれ。「赤い植物誌」は各5,000円。タイプは右から月（商品番号㉛)、ハート（同㉜)、タネ（同㉝)、はっぱ(同㉞)、メシベ(同㉟)。限定各20。

手焼きのボディラインがプリミティブなクロック

手作りのプレートをベースにしたクロック。シンプルながら味わいあるデザインをもつ。文字盤のイラストも印象的。価格は17,000円。色はブルー(商品番号㉔)、レッド(同㉕)、グリーン(同㉖)、イエロー(同㉗)の4種。限定各10。

我らの地球は危うく成り立っている

暗闇をぼおっと美しく照らす地球儀。実はジグソーパズル式にピースで構成されたもの。その名もスペースパズル。地球の脆さが表現されているの、かも。5,900円。(商品番号⑯)。限定20。

通信販売のご案内

●ご注文は
備え付けの通信販売申込書をご利用ください。ご希望の商品番号・個数をご記入の上ポストへ投函ください。住所、氏名、電話番号、ID番号など、ご記入はお間違えのないよう。万が一、品切れの節はご容赦ください。

●お支払い方法は
代金先払いです。ご注文をいただきますと、直ちに郵便振替用紙をお送りいたしますので金額をご確認の上、ご入金ください。金額は、商品代金＋消費税＋送料をご請求させていただきます。

●商品のお届けは
ご入金確認後、原則として4週間以内に、弊社指定の宅配便、または郵便小包にてお届けいたします。ご入金後4週間以上経過しても商品が届かない場合は、お手数ですが、〔セント・ギガワークショップ通信販売係〕☎03（3796）0803までご連絡ください。

▼ご自宅以外への発送も承ります。ご希望のお客様は、通信販売申込書のお届け先指定欄にお届け先をご記入してください。その際、お届け先の電話番号もお忘れなく。

●返品・交換の場合は
次の場合には、返品・交換が出来ます。

1　商品が万が一破損していたり、不良品が届いた場合。

2　ご注文になった商品と違う商品が届いた場合。

商品到着後、10日以内にセント・ギガ　クルーズまでご返送ください。(但し、その際、ご面倒とは存じますが送料をお立て替えください。また、お客様のご注文ミス等による返品の場合、返送料はお客様のご負担となりますので、ご了承ください)

▼次の場合、返品・交換はお受け出来ません。ご了承ください。

1　商品到着後11日以上を経過した場合。

2　お客様の責任で、傷や汚れが生じた場合。

▼返品・交換については、商品発送の際、【返品・交換連絡用紙】を同封いたしますので、詳しくはそちらをご覧ください。

●なおスパイラル・グッズに関しては、1991年12月31日をもって締切とさせていただきます。ご了承ください。

●その他、通信販売に関するお問い合わせは、［セント　ギガ・ワークショップ通信販売係］☎03（3796）0803までご連絡ください。

セント・ギガ・メンバーだけの特典。星からの贈り物、「セント・ギガ・カード」

セント・ギガの加入申し込み時に同時に「セント・ギガ・カード」を申し込むことができます。NICOS（日本信販）やVISAと提携したこのカード、さまざまな機能に加えてセント・ギガオリジナルの特典もついてかなり便利。「セント・ギガ・カード」に申し込まれると会員は「セント・ギガ・クルーズ」として登録され、豊富なスペシャル・プログラムに参加していただくことができます。

その一部を紹介すると、

「サウンド・オブ・ジ・アース」のゴールドCD

四万十川のせせらぎ、青木ケ原樹海の鳥の声、知床の流氷、与那国島の波の音など、放送で使用するに際し、国内外で収録されたナチュラル・サウンドを収めたスペシャルCDです。詳細な解説書つきで限定1，000セットのみ製作予定。

「スター・オデッセイ」「ウォーター・オデッセイ」メッセージ・ブック

放送の中で語られる叙情詩の中から、特にセレクトしたオリジナル・オデッセイを綴ったヴィジュアル・ブック。宇宙のロマン、地球への慈しみ、大自然との共生感が、時に科学的に、時に叙情的に、美しい写真と共に語られていきます。限定2，000部のみ製作予定。

「地球の音」実体験ツアー

日本最西端の与那国島、月が浜で地球の鼓動を満喫するツアーです。ここは日本で一番遅く陽が沈む地点でもあります。「セント・ギガ」の収録スタッフのように、大自然のリズムを満喫していただきます。限定10名のみでの実施予定。

今後さらにセント・ギガ・クルーだけの特別企画を用意してまいりますので、どうぞお楽しみに。この機会にぜひカードにご加入いただき、セント・ギガのイメージ豊かな世界で生活をデザインしてください。

●喫茶店だが、音質がすばらしいので店内でかけている。お客さんからも、どこの放送局かよく問い合わせを受ける。（愛知・喫茶店経営・34）

●ダビングして、出張したときに聴くのを楽しみにしています。（神奈川・会社役員・42）

私は上記契約約款を承認の上、下記の通り加入致します。　衛星デジタル音楽放送株式会社 御中

SDAB
（セント・ギガ）

加入申込書兼契約書

お申込年月日　年　月　日

18才以下の方のご加入はできません。

フリガナ / お申込人氏名	（本人自署）	性別	1．男 3．女 5．法人
ご住所	〒□□□-□□　電話☎　市外局番からお書きください。（　　）　－		
	フリガナ		
	フリガナ		
生年月日	1．昭和 2．大正 3．明治　年　月　日		
お勤め先（自営）名称	フリガナ		
所在地	フリガナ □□□-□□		
	☎（　　）　－　内線（　　）		

様方・アパート・寮・マンション・団地○号棟○号室等を詳しくご記入下さい。

太枠内をもれなくご記入ください。

加入申込書は返却いたしません。

お手持ちのBSデコーダ左底面に貼付または、保証書に記載のID番号を必ずご記入ください。（2台までご記入いただけます。）
注）BSデコーダのID番号は2種類あります。
①先頭が「C」で始まる方……下記の全ての欄にご記入下さい。
②先頭が「C」で始まらない方……下記の○色枠の中のみご記入下さい。

デコーダID番号
1. □-□□□-□□□-□□□□-□□
2. □-□□□-□□□-□□□□-□□

デコーダの番号は、アルファベットからご記入ください。

St.GIGA
BS 3ch PCM

◀〈セント・ギガ〉申込ハガキご記入に際してのチェック・ポイント

●氏名欄
お申し込み人本人の自筆でご記入ください。

●住所欄
丁目、番地、マンション名、室番号までフリガナつきでご記入ください。

●デコーダID番号欄
デコーダID番号を必ずご記入ください。デコーダ底面シールかデコーダ保証書をご覧の上ご記入ください。（アルファベットも含めてご記入ください。）
例　T-000-031-0685
　　CT-000-018-5872-69）

〈セント・ギガ〉はいつでもここにいる。

さて、〈セント・ギガ　ワークショップ〉はいかがであっただろう。この［音の潮流］をライフスタイルの中に取り入れ、宇宙や自然からのメッセージを感じてほしい。

では最後に〈セント・ギガ〉の申込方法の確認である。

左のハガキに必要事項を書き入れて、ポストに投函するだけ。契約っていうと難しそうに感じるけど、実はこんなに簡単なのである。

編集後記

私たち、セント・ギガのコンセプトとプロフィールをご紹介しました小誌「セント・ギガ　ワークショップ」が出来上がりました。この一冊で、セント・ギガの思いが皆様に十分伝えられたでしょうか。それだけを案じておりますが、ここに願いをこめて、「セント・ギガ　ワークショップ」をお届けいたします。

私たちセント・ギガのすべてをお伝えするには、幾千万の美辞麗句や目にも鮮やかなビジュアルをどれほど並べようとも、「音の潮流」そのものに勝るはずはないと承知しています。もしこれより先、皆様にお時間を割いていただけますなら、私たちの音にぜひ一度耳を澄ませてください。

セント・ギガの［音の潮流］は、生命体が海から誕生した時より体内に脈打ってきた自然の成分、リズムと共振するナチュラル・ソニックとも称せます。単に聴き流してしまうのでは、その心地良さに気づかないかもしれません。少しでも長く、できれば繰り返して耳を傾けていただければ、きっと皆様のライフスタイルは地球のリズムを奏でることでしょう。

セント・ギガは［タイド・テーブル］を導入した世界初の音楽放送局です。既製放送局のタイム・テーブルを否定したこのユニークな編成方針に、驚かれた方もきっと少なくないでしょう。ではCNNを思い出してください。開局した当初のCNNは、24時間ニュースしか流さないという編成内容に冷やかな反応を迎えられました。ところが現在、CNNの活躍ぶりは世界中で知るものと至ってます。そんなところに、21世紀メディアの方向性が予感できるかもしれません。

カラダの海と共振する音楽メディア、セント・ギガが、皆様の生活にうるおいと安らぎ、何より〝愛〟を少しでもお届けできたら。それだけが私たちの願いです。

〝私はここにいます〟
〝あなたがそこにいて良かった〟
こちらは、セント・ギガです。

St.GIGA　WORKSHOP発行人　福田　信

●セント・ギガへのお問い合わせは
☎03-3796-1200（セント・ギガ クルーズ）
までお願いいたします。

PUBLISHER――――福田　信
PRINTING――――和久田印刷

私は、右記契約約款を承認の上、下記の通り加入致します。

SDAB Satellite Digital Audio Broadcasting Co., Ltd.

(セント・ギガ)

衛星デジタル音楽放送株式会社 御中

加入申込書 兼 契約書

お申込年月日 年 月 日

フリガナ
お申込人氏名 (法人名)
性別 1. 男 3. 女 5. 法人

フリガナ
ご住所 〒□□□-□□ 電話 ☎ ( ) −
市外局番からお書きください。
※方 アパート・寮・マンション・団地○号棟○号室等を詳しくご記入下さい。

生年月日 1. 昭和 2. 大正 3. 明治 年 月 日

フリガナ
お勤め先名称
お勤め先所在地(自営) 〒□□□-□□ ☎ ( ) − 内線( )

お手持ちのBSデコーダ左底面に貼付または、保証書に記載のID番号を必ずご記入ください。(2台までご記入いただけます。)
注)BSデコーダのID番号は2種類あります。
①先頭が"C"で始まる方……下記の全ての欄にご記入下さい。
②先頭が"C"で始まらない方……下記の○色枠の中のみご記入下さい。

デコーダID番号 1. 2.

デコーダID番号は、アルファベットからご記入ください。

太枠内をもれなくご記入ください。

加入申込書は返却いたしません。

St.GIGA BS PCM "I'm here" "I'm glad you're there"

◀[セント・ギガ]加入の
申し込みハガキです

記入時の注意事項
●太枠内をもれなくご記入ください。ただし、法人の場合は、生年月日のご記入は不要です。
●お申込人氏名はお申し込人本人の自筆でご記入ください。
●ご住所は、丁目、番地、マンション名、室番号までフリガナつきでご記入ください。
●BSデコーダのID番号をお忘れなくご記入ください。
●加入申込書のご返却はできませんので、予めご容赦ください。

衛星デジタル音楽放送株式会社
有料放送サービス契約約款

第1条(約款の適用)
衛星デジタル音楽放送株式会社(以下「SDAB」といいます)は、放送法(昭和25年法律第132号)第52条の4の規定に基づき、有料放送サービス契約約款(以下「本約款」といいます)を定め、これにより有料放送サービスを提供します。

第2条(定義)
本約款においては、つぎの用語はそれぞれ次の意味で使用します。
(1)有料放送サービス　SDABと契約を締結し、その対価を支払った場合にのみ、放送番組を聴取できる放送サービス。
(2)有料放送サービス契約　顧客が有料放送サービスの提供を受けるために本約款に基づきSDABとの間で締結する契約。
(3)加入者　SDABと有料放送サービス契約を締結した者。
(4)BSデスクランブラー　スクランブル化(暗号)された電波を解読し、放送番組を聴取する機器。

第3条(有料放送サービスの提供)
1.SDABは、放送設備の故障その他のやむを得ない事情がある場合を除き、原則として週間の放送時間のうち概ね総時間以上の放送を有料放送サービスの時間として提供します。
2.SDABは、契約成立の日から有料放送サービスの提供を開始します。
3.SDABは、事前に通知する番組計画に従って有料放送サービスを加入者に提供するものとします。但し、SDABは、随時番組内容を、変更することがあります。

第4条(契約の単位)
1.有料放送サービス契約は、加入申し込み者がBSデスクランブラー1台毎に行うものとします。但し、世帯の異なる世帯へ配線その他の方法により分配する場合についてはその世帯毎に有料放送サービス契約を行うものとします。
2.前項に規定する世帯とは、住居及び生計を共にする者の集まり、または独立して住居もしくは生計を維持する単身者をいい、世帯構成員の自家用自動車等の移動体についても、BSデスクランブラー1台毎の有料放送サービス契約とします。

第5条(契約の申し込み)
有料放送サービス契約の申し込みを行なおうとする者は、SDAB所定の有料放送サービス契約申込書に所定の事項を記入の上、SDABまたはその指定する機関に提出して申し込むものとします。

第6条(契約の成立)
1.有料放送サービス契約は、加入申し込み者が第5条に従い申込書を提出し、SDABが承諾した後、SDABの通知する書面に記載した日に成立するものとします。
2.SDABは、有料放送サービス契約の申し込みがあった場合でも、次の場合には承諾しないことがあります。
(1)申し込み者が、過去に料金の支払いを怠った等本約款上要請される聴取料の支払いを怠るおそれがあると認められる場合。
(2)申し込み者が、有料放送番組に関する著作権及び著作隣接権を侵害するおそれがあると認められる場合。
(3)申し込み者が日本国外に居住している場合。
(4)前各号にかかげる他、申し込み者が本約款に違反するおそれがあると認められる場合。

第7条(契約の有効期間)
有料放送サービス契約の有効期間は、有料放送サービス契約成立の日の属する月の翌月初日から起算して満1年間とします。但し、有料放送サービス契約期間満了の1ヵ月前までにSDABまたは加入者のいずれからもSDAB所定の書面による解約の意思がない場合には、引続き有料放送サービス契約はさらに1年間の期間をもって自動的に更新されるものとし、以後も同様とします。

第8条(禁止事項)
加入者は、第4条1項但し書きにより、世帯毎に有料放送サービス契約が締結される場合を除き、SDABの承諾を得ることなく、自己の世帯と異なる世帯へ配線その他の方法により、SDABの提供する放送を再送信ないし再配分することは出来ません。

第9条(SDABの保守)
1.SDABは、SDABの良質な有料放送サービスを維持するため必要な、SDABの放送設備について適切な保守管理に努めるものとします。加入者はSDABの放送設備の保守管理の必要上、有料放送サービスの提供が一時的に停止されまたは聴取不良となることがあることを予め承諾するものとします。
2.加入者は、SDABの放送の聴取が困難になった場合、加入者の設置する設備(アンテナ、チューナー、デスクランブラー等)に関して故障がないことを確認の上、SDABに申し出るものとします。

第10条(料金の支払義務)
加入者は、契約の成立日の属する月の翌月分から別表1に定める聴取料をSDABの指定する日に指定する方法により支払うものとします。また、有料放送サービス契約更新のときも同様とします。

第11条(料金改定)
SDABは、郵政大臣の認可を経て聴取料を改定することがあります。その場合、SDABは加入者に対して遅くとも改定料金適用の2ヵ月前までに改定された料金を通知するものとします。改定料金の適用は、加入者の契約更新時からとなります。

第12条(契約者の氏名等の変更)
加入者は、有料放送サービス契約申込書に記載した氏名、もしくは名称または住所に変更があったときは、すみやかにSDAB所定の書面によってSDABに申し出るものとします。

第13条(契約上の地位の譲渡等)
加入者は、SDABの書面による同意を得ることなく、有料放送サービス契約上の権利又は義務その他契約上の地位の全部又は一部について譲渡、質入れ、貸与その他の処分をすることは出来ません。

第14条(契約上の地位の承継)
相続または法人の合併により有料放送サービス契約に基づく地位の承継があった場合は、相続人または合併後存続する法人、もしくは合併により設立された法人は、すみやかに書面によりSDABに届け出るものとします。

第15条(中途解約)
1.中途解約については、加入者は解約を希望する日より1ヵ月前までにSDAB所定の書面によって、SDAB宛に通知するものとします。
2.SDABが中途解約を認めた場合には、SDABは別表IIに定めるところにより、既に支払われた聴取料について払い戻しを行うものとします。

第16条(契約の解除等)
1.SDABは、加入者が有料サービス契約上支払うべき聴取料の支払いを怠った場合、その他本約款に定める条項に違反した場合には、加入者に対し有料放送サービス契約を解除できるものとします。有料放送サービス契約が解除された場合、加入者は有料放送サービス契約終了の日に属する月までの聴取料を支払う義務を負います。
2.SDABは、加入者が有料放送サービス契約上支払うべき聴取料の支払いを怠った場合、有料放送サービス契約期間内であっても、当該支払いを受けるまでは、加入者に対する有料放送サービスを停止することができるものとします。

第17条(不可抗力による免責)
天災、事変、電波障害、降雨等による聴取障害または「食」、その他SDABの責に帰することのできない事由により有料放送サービスが聴取不能ないし困難となった場合、SDABは一切の責任を負いません。

第18条(SDABの責に帰すべき聴取障害)
SDABの故意または過失により、SDABの有料放送サービスが聴取不能ないし困難となった場合には、SDABは調査を行い、必要な措置を講ずるものとします。又この場合においてSDABが提供する有料放送サービスを月のうち半分以上聴取不能となった場合には、当該月の聴取料はお返しします。但し、格段の申し立てがない場合は聴取料の前払金として充当させていただきます。

第19条(著作権等侵害の禁止)
1.加入者は、個人的に又は家庭内その他これに準ずる限られた範囲内において使用することを目的とする以外(著作権法第30条、第102条)には、SDABの提供する放送をカセットデッキその他の方法により複製することはできません。
2.加入者は前項の他SDABの提供する番組に関する著作権、著作隣接権を侵害する行為をなすことはできません。

第20条(約款の変更)
SDABは、郵政大臣の認可を受けた上でこの約款を変更することができるものとします。この場合、加入者は変更後の約款の適用を受けるものとします。但し料金の規定については第11条の定めるところによります。

(付則)
本約款は平成2年7月23日より施行します。(郵政大臣の認可が得られた日)

以上

別表I
1　聴取料月額:600円(支払い時には3%の消費税が加算されます。)
2．聴取料の支払いと支払い方法
(1)聴取料の支払いは1年分(7,200円)前払いとなります。(支払い時には、3%の消費税が加算されます。)
(2)加入者は有料放送サービス契約申込書とともに口座振替依頼書をSDABに提出し、当該依頼書において加入者の指定する金融機関の口座から、SDABの指定する日に原則として自動振替の手続きによって支払いを行うものとします。
(3)有料放送サービス契約更新のときは、更新開始日の前日までに、(2)の手続きにより、(1)の聴取料の前払いとなります。

別表II
中途解約時の払い戻し
中途解約の際には、次に定める通り、聴取料を払い戻しします。
中途解約がされた場合、前払い金額から618円(聴取料月額及び消費税)に解約日の属する月を含むそれまでの聴取月数を掛けた金額及び払戻しに必要な経費、手数料を差し引いた残額を払い戻し致します。但し、利息は付しません。

*聴取料は、月々600円(年1回7,200円前払い・消費税別)で、原則として日本信販㈱を通してご請求させていただきます(金融機関口座より自動引き落としされます)。契約は、解約のお申し出がない限り1年単位で更新されます。有料放送サービス開始より3カ月以内の解約返金はご容赦願います。※聴取料御支払書の正式名称は聴取料払込システム入会申込書となります。

衛星デジタル音楽放送株式会社 御中

セント・ギガ 通信販売申込書

投函日 年 月 日

商品番号	商品名	個数

太枠内をもれなくご記入ください。

WOWOW(JSB)に入会されていますか。 している していない
セント・ギガに入会されていますか。 している していない

お手持ちのBSデコーダ左底面に貼付または、保証書に記載のID番号を必ずご記入ください。(2台までご記入いただけます。)
注)BSデコーダのID番号は2種類あります。
①先頭が"C"で始まる方……下記の全ての欄にご記入下さい。
②先頭が"C"で始まらない方……下記の○色枠の中のみご記入下さい。

デコーダID番号

デコーダID番号は、アルファベットからご記入ください。

St.GIGA BS PCM "I'm here" "I'm glad you're there"

◀[セント・ギガ]グッズの
購入申し込みハガキです

僕たちに、でた。

早稲田大学モダンジャズ研究会OB

毎日をもっとステキにデザインしようと、NICOS（ニコス）ゴールドカードはいいます。

魅力的な人って、どんな人のことだろう。
それは、生き方が"輝いているかどうかだと思うのです、"僕たち"は。
肩書きではなく、仕事や休日のすごし方、人とのつきあい方で、
自分の存在を認めさせることのできる人でありたいと願って、"僕たち"は生き方のスタイルにこだわっているのです。そんな"僕たち"に共感して、
日本信販からNICOS GOLDの誕生です。ステータスを主張するだけのゴールドカードを超えて、生き方をゴールドにクオリティアップする、
医・職・充の機能と提案力を贅沢にもたせました。NICOS GOLD、
創立40周年を迎えた日本信販から、いま"僕たち"にデビューです。
ゴールドカードの新しい時代が、この一枚から始まります。

健康は素晴らしい人生の基本です。特に重責を担うメンバーの方々に、クオリティの高いサービスを用意。ホームドクターとしてご利用ください。

- ホームドクター24・全国患者搬送アシスタンスサービス
- 国内旅行傷害保険（カード使用義務）保険金額 最高5,000万円まで補償。入院、通院についてもお支払いします。予めカードにより宿泊料金、主催旅行料金、公共乗用具搭乗券料金を決済した場合 ①宿泊施設での火災による傷害 ②主催旅行参加中の傷害 ③公共乗用具搭乗中の交通傷害を補償。
- 海外旅行傷害保険（最長90日間）保険金額 最高5,000万円まで補償。

法律や税務など、ビジネスやプライベートのご相談を専門家が親身にお受けいたします。信頼のパートナーとして機能します。

- 税務テレホンサービス（税理士相談）
- 弁護士紹介サービス
- スピーチ原稿添削サービス
- トランスレーションサービス（翻訳サービス）
- ヘリコプター優待サービス
- エアクーポン・タクシーチケット（無料発行）
- トラベルアシスタンスサービス
- ゴルフデスク（平日予約・コース予約状況）
- オーナーズカード（事業用口座カード）
- アニュアルサマリーレポート（年間利用明細書）

レジャー、ショッピングや趣味など、生活のさまざまなシーンに役立つクオリティの高いサービスで、ライフスタイルをフォローいたします。

- ゴールドデスク（フリーダイヤル）
- 優遇料率キャッシング
- キャッシュボーナスプレゼント・ゴールド会員誌（季刊）
- 分割払い・(3回～20回)・リボルビング払い
- ホームセキュリティシステム優待斡旋サービス
- ハウスクリーニングサービス
- 地価情報・鑑定書作成サービス
- プロ野球チケットプレゼントサービス
- 海外ハローデスク（24時間・日本語対応）
- 海外緊急再発行サービス

NICOS

（ 生き方の新しい性能です。 ）

僕たちの、NICOS GOLD誕生

NICOSゴールドカードご入会プレゼント● NICOSゴールドカード会員にご加入のあなただけに、トラディショナルな深いこだわりが楽しめる特製「オリジナル・ラゲージタッグ」をプレゼント。
●カードに関するお問い合わせ、ご入会お申し込みは日本信販カードサービスセンター 0120-030-060（営業時間9:15～20:00日・祝・祭日は休業）へお気軽にどうぞ。●年会費10,300円（消費税含む）家族会員は無料です。

カードのご利用は、無理なく計画的に。

「セント・ギガ」ワークショップ
VOL.1 1991
平成3年11月15日発行
発行・編集人＝福田信
発行＝衛星デジタル音楽放送株式会社
〒150 東京都渋谷区神宮前2-4-12フルークス外苑
TEL・03-3796-1200（セント・ギガ クルーズ）
TEL・03-3796-5665（営業部）
定価＝250円（本体243円）